

# 京都府埋蔵文化財情報

## 第 20 号

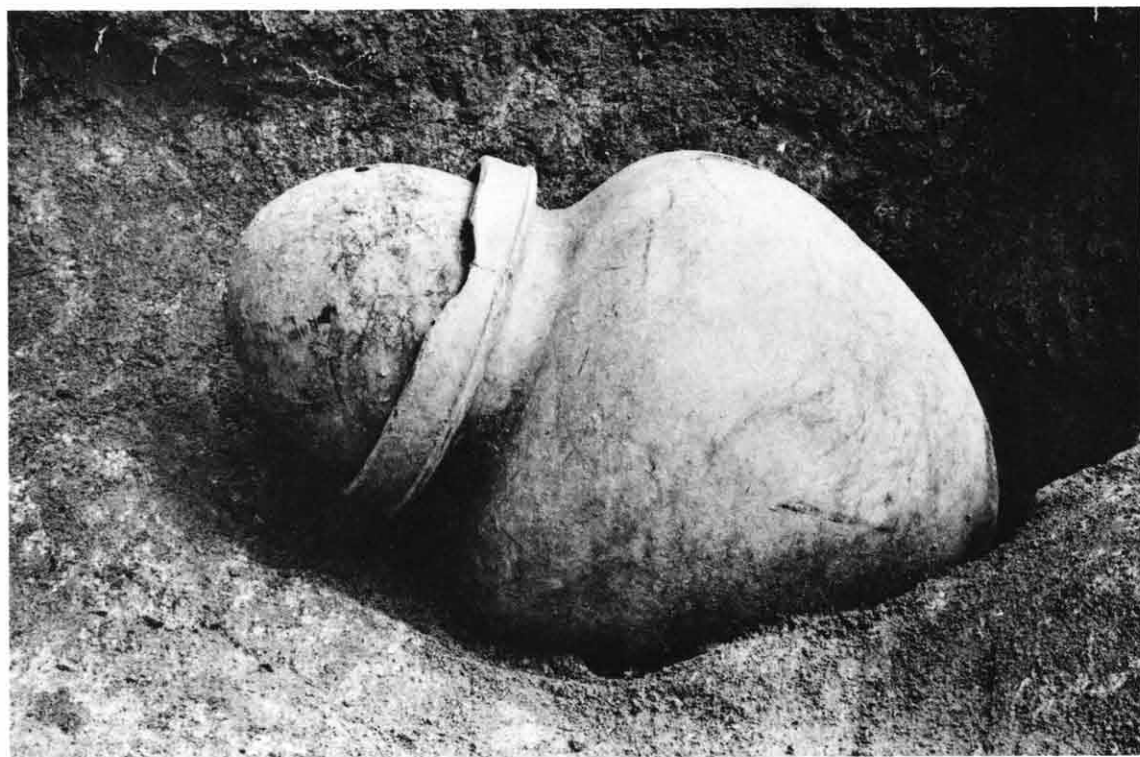
|                                                                 |                     |    |
|-----------------------------------------------------------------|---------------------|----|
| 京都府中郡峰山町カジャ古墳出土の筒形銅器及び<br>同府与謝郡加悦町愛宕山古墳出土の鎌身と短剣鞘<br>に付着する織物について | 布目 順郎               | 1  |
| 加悦町吾野山遺跡出土の土器棺                                                  | 佐藤 晃一               | 7  |
| 芝山遺跡の発掘調査                                                       | 小池 寛                | 13 |
| 昭和61年度発掘調査予定の遺跡                                                 | 杉原 和雄               | 22 |
| 昭和60年度京都府下埋蔵文化財の調査                                              | 山口 博                | 26 |
| —昭和60年度発掘調査略報—                                                  |                     | 33 |
| 25. 正 垣 遺 跡                                                     | 28. 畑 山 2 号 墳       |    |
| 26. 桃 山 古 墳 群                                                   | 29. 木 津 地 区 所 在 遺 跡 |    |
| 27. 栗 ケ 丘 古 墳 群                                                 |                     |    |
| 資料紹介 青野遺跡出土の渦巻文のある土器                                            | 田代 弘                | 44 |
| 府下遺跡紹介 32. 湯舟坂2号墳                                               |                     | 47 |
| 長岡京跡調査だより                                                       |                     | 50 |
| 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧                                   |                     | 56 |
| センターの動向                                                         |                     | 57 |
| 受贈図書一覧                                                          |                     | 59 |

1986年6月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



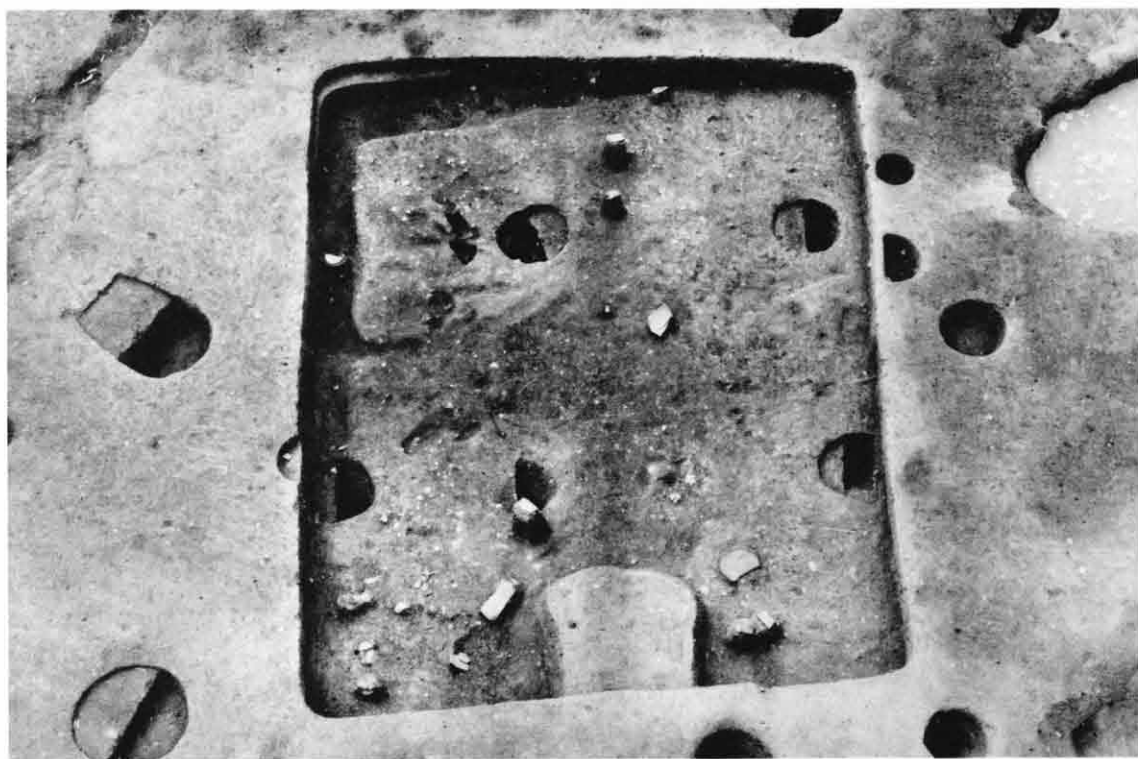
(1) 土器棺出土位置



(2) 土器棺出土状況



(1) 古墳・土壇墓群検出状況



(2) 住居3 検出状況

# 京都府中郡峰山町カジャ古墳出土の筒形銅器及び 同府与謝郡加悦町愛宕山古墳出土の鎌身と短剣鞘 に付着する織物について

布 目 順 郎

標記のカジャ古墳出土の筒形銅器(第1図、用途不明)の表面に付着する織物と、同じ銅器の周囲にあいているいくつかの長方形の窓の一つから転がり出た織物、ならびに愛宕山古墳出土の鎌身と短剣鞘(木製)に付着する織物について調査したので、ここにその結果を報告する。

両墳の年代は、カジャ古墳が古墳前期後半、愛宕山古墳が古墳中期初頭とされる。

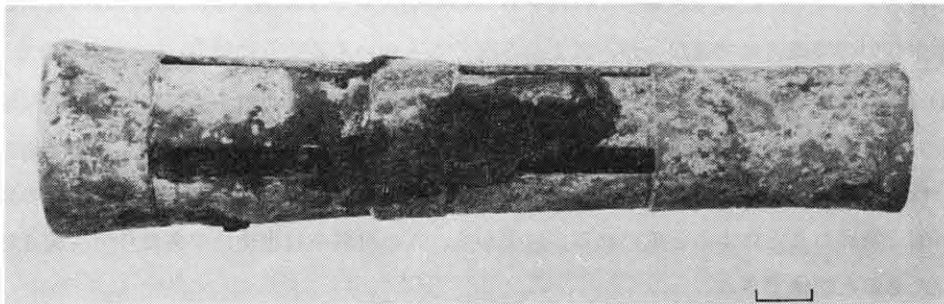
## I カジャ古墳出土の織物

### 1. 材質

材質調査は繊維断面形によった。断面作成には従来同様、パラフィン切片法を適用した。結果は第3図に示す通りで、これらはすべて家蚕のものである。

### 2. 織り密度と繊維断面計測値による産地推定

出土の絹は第1図及び第2図A、Bにみるように、両者とも平絹である。銅器の表面に付着するものは三重、銅器内部から出たものは二重に重なっているが、織り密度からみて、表面のものも内部から出たものも、それぞれ同じ平絹が重なったものであることが判明した。したがって、織物としては、表面のものと内部から出たものがそれぞれ1種類宛ということになる。それらの織り密度は第1表に示す通りであって、表面のものに比べて内部



第1図 カジャ古墳出土筒形銅器(その中央部あたりに絹が付着している)(scale : 1 cm)

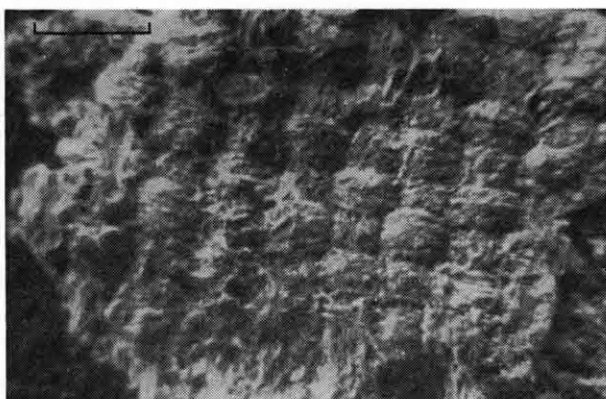
から出たものは経糸本数が倍以上もある細密なものである。その色からみて、表面のものは銅錆の色がある程度染着して鶯色になったとみられるのに対し、内部から出たものは殆ど遊離に近い状態でごくわずかに銅器内壁に接着していたのが、何かの弾みに離脱して転がり出たものと思われ、その色(柴一焦茶)は絹本来のものとみられる。

繊維断面計測値は、表面の絹と内部にあった絹とで、完全度においては大差がないが面積は後者が大きい。このことと、前記織り密度とから、表面の絹よりも内部にあった絹のほうが高品質であるといえる。

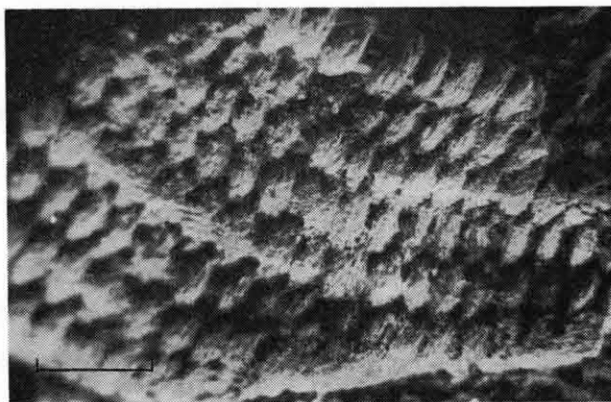
次に、第1表の数値の平均(Aとする)を、古墳時代前期

の日本海沿岸以外の地から出た平絹での平均値(Bとする)と比較(差の有意性検定は省略する)するときは、第3表にみるように、繊維断面計測値においても経緯糸本数においても $A < B$ となる。経緯糸本数の比は $A > B$ であるが大差ではない。なにぶん、Aの資料数が少ないので確言はできないが、以上から次のことがいえるように思う。

- (i) 繊維断面計測値が $A < B$ となったことは、Aの材料糸がBよりも品質において劣っていたことをあらわしており、このような結果になった理由として、蚕品種・養蚕技術の低劣も考えられるが、むしろ日本海沿岸における気候不良(特に低温)の影響が蚕桑の発育を妨げたことによると思われる。以上から、Aの材料糸は出土地のあたりで生産されたものと想像できる。
- (ii) 織り密度の点では、経緯糸本数のそれぞれ平均値が $A < B$ になったとはいえ、銅器内



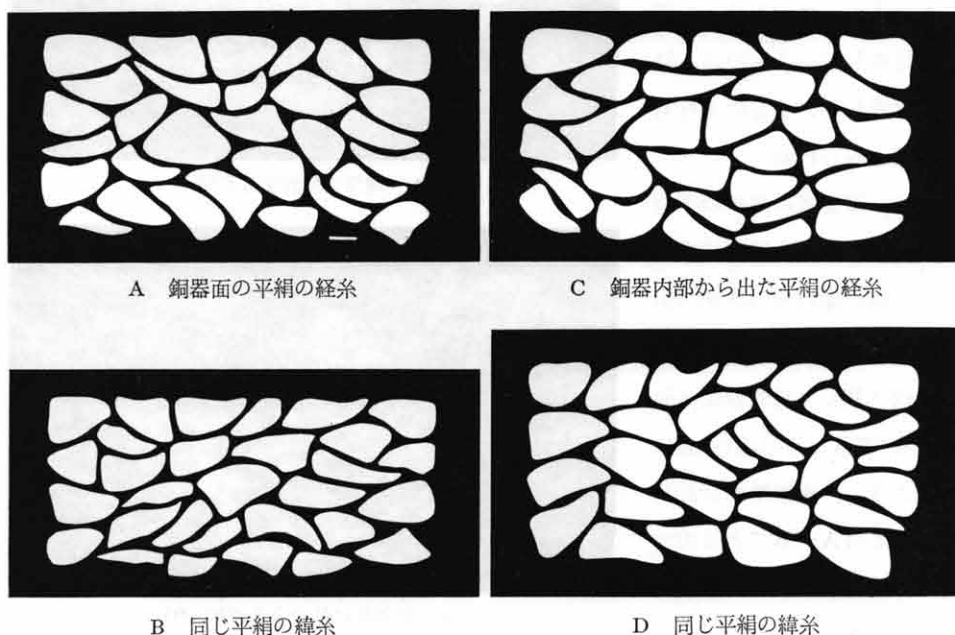
A 筒形銅器表面に付着する平絹 (scale: 1mm)



B 筒形銅器の長方形の窓の一つから転がり出た平絹 (scale: 1mm)  
(もとは銅器の内部に付着していたものと思われる)

第2図 筒形銅器に付着する平絹

部にあった平絹の密度が当時のものとしてはきわめて高い部類に属する。むしろ、表面に付着する絹が小さな密度であったことから、平均値においてBを下まわる値になったとみられよう。A<BからはAの織技がBよりも劣ることになるが、実際はどちらが優れていたともいえないように思われる。Aの材料糸が出土地のあたりで生産されたものであれば、その絹が織られた場所もまたそのあたりであったと考えられる。



A 銅器面の平絹の経糸

C 銅器内部から出た平絹の経糸

B 同じ平絹の緯糸

D 同じ平絹の緯糸

第3図 カジャ古墳出土の平絹の繊維断面転写図 (scale: 5 $\mu$  拡大率はA-Dに共通)  
(個々の断面転写図を無秩序に並べたもの)

## II 愛宕山古墳出土の織物

### 1. 材質

材質調査の方法はカジャ古墳の絹の場合に等しい。

結果は第5図に示す通りで、これらはすべて家蚕のものである。

### 2. 織り密度と繊維断面計測値による産地推定

出土の絹は第4図にみるように、いずれも平絹である。鎌身に付着するものは四重に重なっているが、織り密度からみて、それらは同じ平絹が重なったものであることがわかった。出土の平絹3種の織り密度は第2表に示す通りであって、鎌身に付着するものはごく普通の密度であるのに対し、短剣の鞘に付着するものは両者ともにいたって高密度である。鎌身の絹の色(柘黄)は鎌の鉄錆の影響が考えられ、短剣鞘の絹の場合は木の色の影響がいくらかあるとみられる。

繊維断面計測値は、完全度においては3者間に大差がなく、面積においては短剣鞘の絹(2)が残り2者よりも大きな値を示した。

本墳出土の平絹のうち短剣鞘に付着しているものは、鎌身に付着しているものよりも高級品とみられる。

次に、第2表の数値の平均(Aとする)を、古墳時代中期の日本海沿岸以外の地から出た平絹での平均値(Bとする)と比較(差の有意性検定は省略する)するとき、第4表にみるように、繊維断面計測値においては $A < B$ であるのに対し、経緯糸本数とその比においては $A > B$ となる。この場合も、Aの資料数が少ないので確言はできないが、以上から次のことがいえると思う。

(i) 繊維断面計測値が $A < B$ となったことはカジャ古墳での場合と同じであり、その理由についても全く同じことがいえる。したがって、Aの材料糸の産地としては、この場合も出土地のあたりを想定することができる。

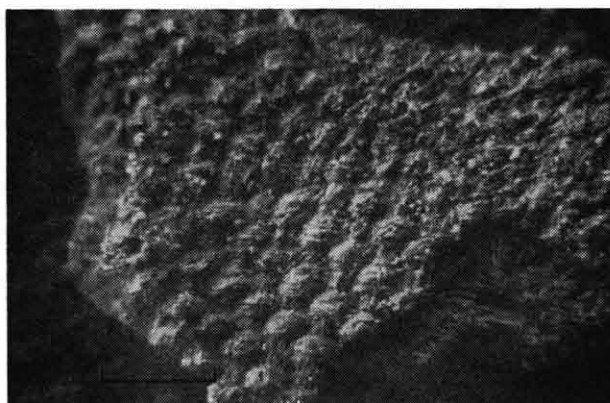
(ii) 織り密度の点で $A > B$ となったことは、織技においてAがBよりも優れていたことを想わせる。Aの絹がどこで織られたかについては、その材料糸が生産されたとみられる



A 鎌身に付着する平絹



B 短剣鞘に付着する平絹 (1)

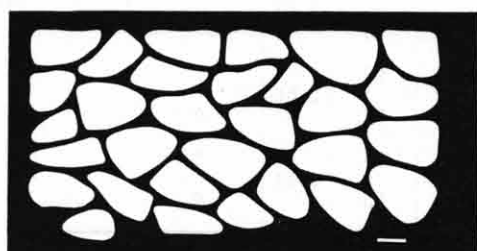


C 短剣鞘に付着する平絹 (2)

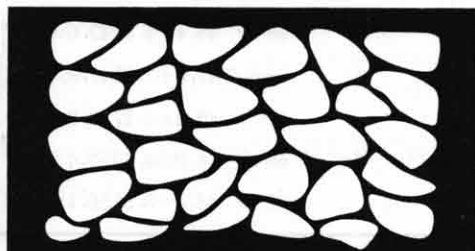
第4図 愛宕山古墳出土の平絹 (scale: いずれも 1mm)

出土地のあたりを想定するのが自然であろう。

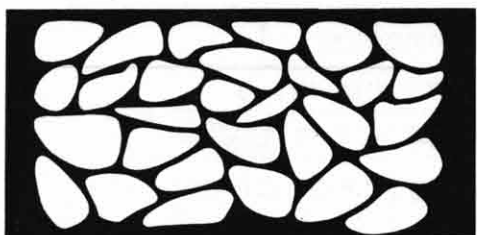
終りに、本調査の機会を与えられた京都府峰山町教育委員会ならびに同府加悦町教育委員会に感謝する。  
(布目順郎=京都工芸繊維大学名誉教授)



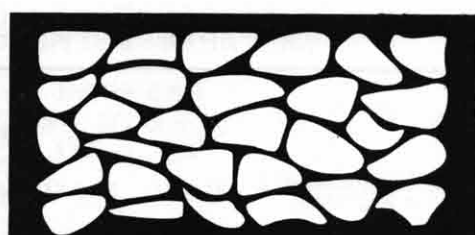
A 鎌身の平絹の経糸



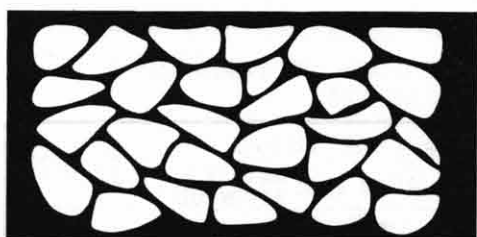
D 同じ平絹の緯糸



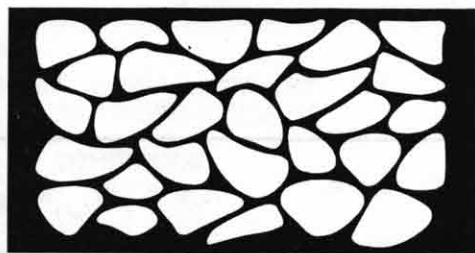
B 同じ平絹の緯糸



E 短剣鞘の平絹(2)の経糸



C 短剣鞘の平絹(1)の経糸



F 同じ平絹の緯糸

第5図 愛宕山古墳出土の平絹の繊維断面転写図 (scale: 5 $\mu$  拡大率はA-Fに共通)  
(個々の断面転写図を無秩序に並べたもの)

第1表 カジヤ古墳出土の筒形銅器に付着する平絹の繊維断面計測値と織り密度

| 資 料       | 経緯の別 | 色        | 繊維断面計測値         |                   | 供試繊維の数 | 経糸本数<br>(対1cm) | 緯糸数と緯糸数の比 | 時 代    | 備 考    |
|-----------|------|----------|-----------------|-------------------|--------|----------------|-----------|--------|--------|
|           |      |          | 完全度<br>(%)      | 面積<br>( $\mu^2$ ) |        |                |           |        |        |
| 表面に付着する平絹 | 経    | 鶯        | 41.9 $\pm$ 3.84 | 49.9 $\pm$ 6.01   | 30     | 28             | 1.40      | 古墳前期後半 | 三重に重なる |
| 〃         | 緯    | 〃        | 39.9 $\pm$ 4.26 | 43.7 $\pm$ 4.75   | 30     | 20             |           | 〃      |        |
| 内部から出た平絹  | 経    | 柴一<br>焦茶 | 39.5 $\pm$ 3.35 | 52.2 $\pm$ 5.28   | 30     | 65             | 2.95      | 〃      | 二重に重なる |
| 〃         | 緯    | 〃        | 44.9 $\pm$ 3.41 | 56.6 $\pm$ 5.31   | 30     | 22             |           | 〃      |        |

第2表 愛宕山古墳出土の鎌身と短剣鞘に付着する平絹の繊維断面計測値と織り密度

| 資 料           | 経緯の別 | 色  | 繊維断面計測値         |                   | 供試繊維の数 | 経糸本数<br>(対1cm) | 緯糸数と<br>経糸数の比 | 時 代    | 備 考 (1) |
|---------------|------|----|-----------------|-------------------|--------|----------------|---------------|--------|---------|
|               |      |    | 完全度<br>(%)      | 面積<br>( $\mu^2$ ) |        |                |               |        |         |
| 鎌身に付着する平絹     | 経    | 柘黄 | 49.0 $\pm$ 3.27 | 47.3 $\pm$ 4.85   | 30     | 35             | 1.40          | 古墳中期初頭 | 四重に重なる  |
| 〃             | 緯    | 〃  | 45.4 $\pm$ 4.23 | 49.6 $\pm$ 5.27   | 30     | 25             |               | 〃      |         |
| 短剣鞘に付着する平絹(1) | 経    | 焦茶 | 47.0 $\pm$ 3.15 | 47.9 $\pm$ 4.25   | 30     | 90             | 2.81          | 〃      |         |
| 〃             | 緯    | 〃  | 46.0 $\pm$ 4.17 | 48.3 $\pm$ 4.98   | 29     | 32             |               | 〃      |         |
| 短剣鞘に付着する平絹(2) | 経    | 柴  | 46.9 $\pm$ 4.49 | 52.4 $\pm$ 5.28   | 30     | 75             | 2.14          | 〃      |         |
| 〃             | 緯    | 〃  | 48.4 $\pm$ 3.32 | 56.1 $\pm$ 6.23   | 30     | 35             |               | 〃      |         |

備考(2) 鎌は3号墳出土。短剣は日本製。

第3表 カジャ古墳出土の平絹と、古墳時代前期の日本海沿岸以外の地の古墳から出た平絹における繊維断面計測値及び織り密度の比較

| 資 料 区 分 |                    | 繊維断面計測値    |                   | 織り密度 (対1cm) |          |               | 遺 跡 の 数           |
|---------|--------------------|------------|-------------------|-------------|----------|---------------|-------------------|
|         |                    | 完全度<br>(%) | 面積<br>( $\mu^2$ ) | 経 糸 数       | 緯 糸 数    | 経糸数と<br>緯糸数の比 |                   |
| A       | 京都府中郡峰山町カジャ古墳の平絹   | 41.6 (4)   | 50.6 (4)          | 46.5 (2)    | 21.0 (2) | 2.18 (2)      | 1                 |
| B       | 日本海沿岸以外の前期古墳から出た平絹 | 51.7(16)   | 61.4(16)          | 57.2(10)    | 33.1(10) | 1.91(10)      | 6 (福岡3, 京都1, 奈良2) |

備考 ( ) 内の数値は資料数

第4表 愛宕山古墳出土の平絹と、古墳時代中期の日本海沿岸以外の地の古墳から出た平絹における繊維断面計測値及び織り密度の比較

| 資 料 区 分 |                    | 繊維断面計測値    |                   | 織り密度 (対1cm) |          |               | 遺 跡 の 数                                     |
|---------|--------------------|------------|-------------------|-------------|----------|---------------|---------------------------------------------|
|         |                    | 完全度<br>(%) | 面積<br>( $\mu^2$ ) | 経 糸 数       | 緯 糸 数    | 経糸数と<br>緯糸数の比 |                                             |
| A       | 京都府与謝郡加悦町愛宕山古墳の平絹  | 47.1 (6)   | 50.3 (6)          | 66.7 (3)    | 30.7 (3) | 2.12 (3)      | 1                                           |
| B       | 日本海沿岸以外の中期古墳から出た平絹 | 52.2(86)   | 62.2(86)          | 43.5(64)    | 23.7(64) | 2.06(64)      | 12 (栃木1, 静岡1, 奈良2, 大阪2, 兵庫1, 岡山1, 福岡2, 熊本2) |

備考 ( ) 内の数値は資料数。

## &lt;参考文献&gt;

布目順郎「古代の編織物・縄等からみた日本海文化」(森 浩一・門脇禎二他『古代日本海文化の源流と発達』, 大和書房 1985

## 加悦町吾野山遺跡出土の土器棺 〈図版第1参照〉

佐 藤 晃 一

### 1. はじめに

ここに紹介する資料は、京都府与謝郡加悦町字加悦<sup>あがのやま</sup>に所在する吾野山遺跡において出土したものである。遺跡は、農村総合整備モデル事業で農業集落道土地線整備工事を実施して天神山の西斜面を削平していたところ、工事中に遺物が出土したものである。遺跡は昭和60年10月8日に工事請負の砂後建設株式会社により発見され、工事発注者である加悦町農林課農林土木係を通じて加悦町教育委員会に報告があった。通報を受けた加悦町教育委員会では担当者佐藤を現地に急行させ、応急の処理を行い、遺物を取りあげた。その後、復元などの整理を行ったので、ここにその概要を報告するものである。遺物は現在、加悦町教育委員会で保管し、加悦町農村文化センターで一般に公開展示されている。

なお、現地調査で遺跡発見を急報され現状を保存して調査に御協力をいただいた砂後建設株式会社、調査に種々の便宜を図られた加悦町農林課農林土木係主査柴田良一氏に深く



第1図 位 置 図 (1/50,000)

感謝申し述べたい。また、現地での作業に御協力いただいた野田川町教育委員会社会教育主事補後藤公一氏にも御礼申し述べる次第である。

## 2. 遺跡の位置

吾野山遺跡は、丹後半島の基部を北流する野田川とその支流加悦奥川の合流点を望む天神山に位置する。天神山は野田川により形成された加悦谷盆地の西をかぎる笠野城山より北東にのびた尾根の先端にある独立丘陵で、平野よりの比高40mをはかり、最高所は標高56mを有する。現在、天神山の山頂には天満神社と式内社吾野神社が鎮座している。

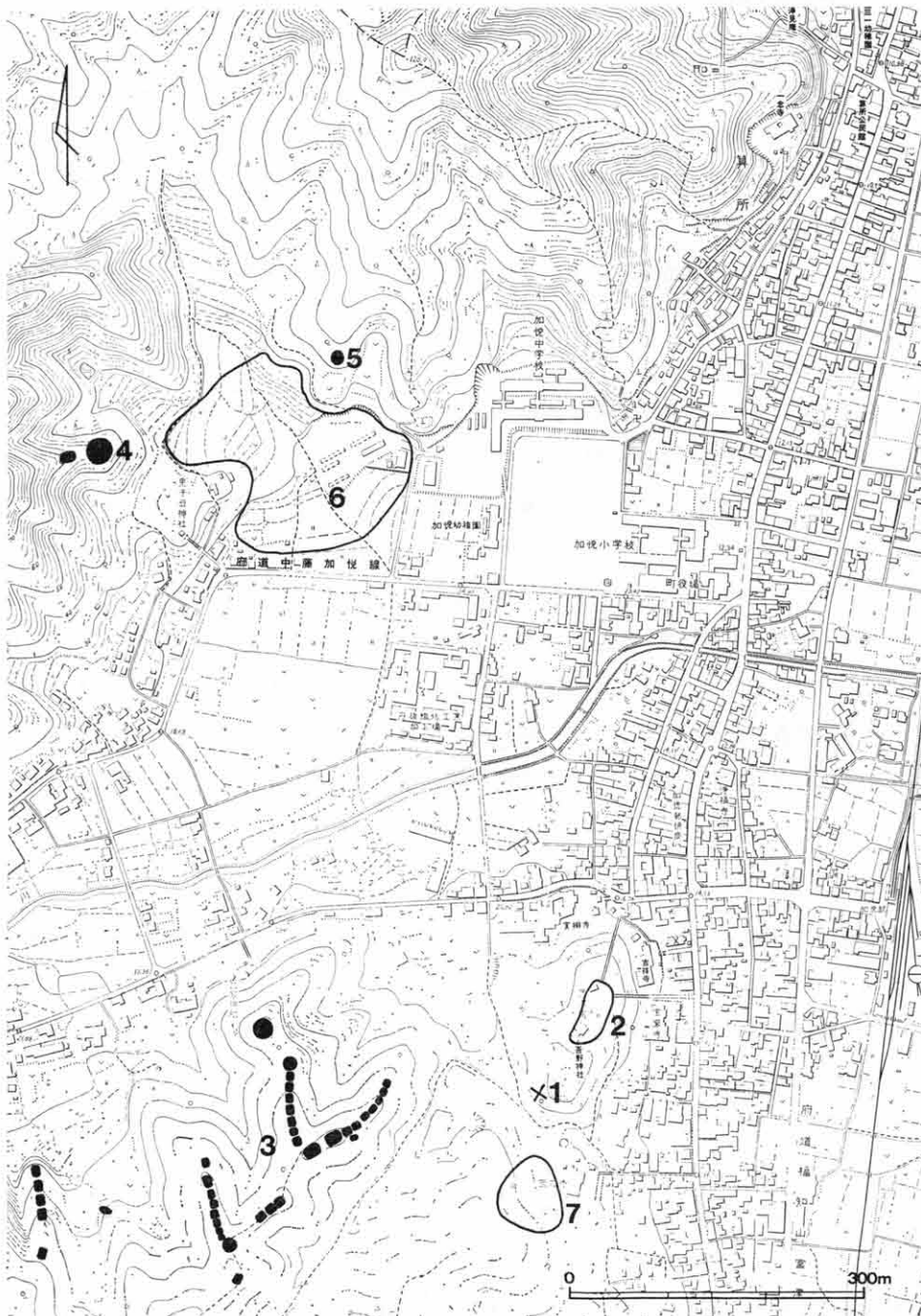
遺跡が発見されたのは、昭和2年3月の北丹後地震で天満神社社殿が倒壊し、同4～5年にかけて改築工事が行われた際、その工事中「<sup>(注1)</sup>堅穴式卵坑」が多数発見され遺物なども出土したことによる。出土遺物はわずか一枚の写真に残されているのみであるが、<sup>(注2)</sup>擬凹線を2条有する弥生時代後期とみられる甕形土器2個体と管玉3、小玉76が写されている。出土状況はよくわからないが、遺跡が丘陵頂部に位置すること、石材などの記載がみられないことから、土墳墓などが存在していた可能性が強いとみられる。また、管玉が細身の小形品であるので、これも土器と同様弥生時代後期の所産になるものかと考えられる。

次に、吾野山遺跡の西0.3キロ、谷を一つへだてた尾根上には加悦大師山古墳群が位置する。<sup>(注3)</sup>古墳群は東西2支群に分かれる。東群は19基で構成され、埋蔵施設は箱式石棺が主体を占める。石棺はすでに6基が確認されており、出土遺物は少ないものの<sup>(注4)</sup>金環などが出土しており、時代的に下降することを思わせる。西群は13基の小形古墳で構成されている。加悦奥川をへだてて北0.8キロには駒田遺跡が立地している。遺跡は南に広がる谷に位置し、大正11年加悦町外三カ村組合立避病舎建設工事中、多量の土器片を出土した。トロッコに3台分ほど土器片が出土したと記録されているが、<sup>(注5)</sup>現存するのは36個体の土師器である。大半は古墳時代中期の所産とみられるもので、おそらく集落遺跡があったものと考えられる。駒田遺跡をとりまく丘陵上には、清水ヶ谷古墳群、駒田古墳群が所在し、特に清水ヶ谷1号墳は直径35m、高4mをはかるやや規模の大きい円墳で、加悦奥川流域に所在する90余基の古墳中、最大の規模を有する。

以上が吾野山遺跡をかこむ遺跡の概要であるが、ここにおいても古墳時代には集落をとりまく丘陵上に小規模古墳が立地するというパターンが成立するようである。

## 3. 遺物の出土状況

土器の出土地点は、天神山の西斜面で、谷よりの比高8mをはかり、一見して遺跡性を感じる場所ではない。前記した昭和4～5年の土器出土地より南西100mあたりに位置する。



第2図 遺 跡 分 布 図

1. 吾野山遺跡土器棺出土地点    2. 吾野山遺跡土坑墓等検出地点  
 3. 加悦大師山古墳群    4. 清水ヶ谷古墳群    5. 駒田古墳群    6. 駒田遺跡

土器は大型重機で斜面を土取りした後、工事作業員が手作業で斜面を削っている時に発見されたので、ほとんど損傷もなく遺構をそのままの状態に残されていた。事前の状況について工事関係者に聞いたところでは、その部分には墳丘や平坦地などはなかったとのことである。しかし、出土地点の東南4mから先にはまだ旧地形が残されており、その出土地点の延長上にあたる地点には幅2mほどのやや傾斜のゆるやかなテラス状地形が長さ6mほどにわたって続いていた。おそらく、出土地点付近までこのテラスが続いていたものと考えられる。このテラスが人工のものか、自然のものかは速断できないが、土器出土位置のすぐ北の斜面には地山を掘りこんだ落ちこみの痕跡もみられ、土器以外にも遺構が存在した可能性が考えられる。

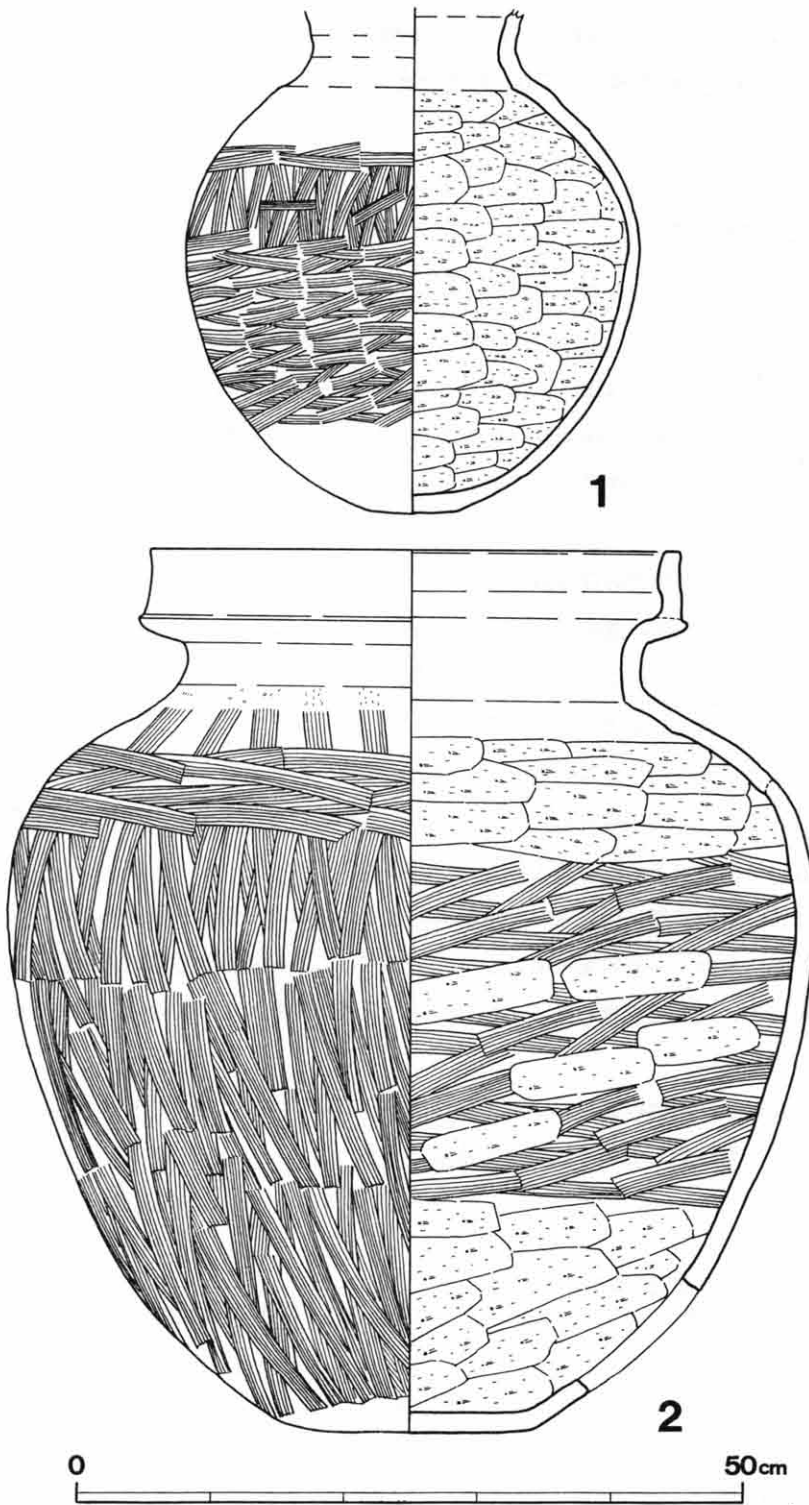
土器は地山を掘りこんだ楕円形の土坑内に大型の壺形土器と中型の壺形土器を合口にして置いてあった。土坑は北西―南東に主軸を置き、底部の長径0.8m、短径0.5m、深さは地表から推定約1.2mほどをはかる。土器は壺2を北側に口を向け横位の状態で土坑底に置き、口縁部をやや持ち上げている。壺2は体部下半を約10cmの大きさに焼成後穿孔されており、その穿孔された面を土坑底に接している。壺は完形で、内部には少量の土が流入していたが、中空の状態であった。壺2の口縁の中には中形の壺1が入れている。壺1はすでに口縁部が欠きとられており、体部上半が中におさめられていた。壺1の外面には煤が上半に付着し、そのは煤壺2の口縁部内面にも付着している。このような状態からすると、壺2が主容器で、壺1はその蓋に使用されたとみることができよう。

#### 4. 出土遺物について

出土遺物は既述のとおり、土師器の壺形土器2個体であり、壺内には何らの遺物も検出することができなかった。

壺1は口縁部が欠き取られているほかは損傷もなく、完形である。現高30.3cm、最大腹径27.0cm、頸部径12.1cmをはかる。器形はほぼ球形の体部にかすかに底を意識した平底を有し、頸部はやや外上方に広がり気味におわっている。外面調整はタテ方向のハケメを施した後、ヨコハケメあるいはナデで仕上げており、内面はヨコ方向のヘラケズリを施している。胎土は砂粒を多くふくみ、淡橙褐色に堅く焼きあげられている。外面の煤は体部上半に多く付着しており、下半部にはみられない。

壺2は完形品で、体部下半側面に径10cmの穿孔がみられる。器高52.8cm、口径31.4cm、最大腹径48.0cm、頸部径27.0cmをはかる。器形は肩張り気味の体部に二重口縁を付けたもので、底部は平底である。調整は外面はタテ方向のハケメを基調とし、外部上半はヨコ方向のハケメを有する。体部内面はナメ方向のハケメを施した後、ヨコ方向にケズリを行



第3図 出土遺物実測図

うが、体部中位ではケズリが粗雑である。口縁部は内外面ともヨコナデで仕上げている。胎土は、砂粒・長石粒を多くふくみ、暗褐色に堅く焼きあげられている。黒斑は一か所みられる。

## 5. まとめにかえて

吾野山遺跡出土の合口土器は、遺跡性のある地点から出土したものではない。しかし、すでに述べてきたように、土器が丘陵をとりまくテラス状地形にかかわる位置より出土している可能性が強いことは注目されることである。これまで、丹後地域でこのようなテラス状地形より古墳時代の埋葬施設が検出されたのは、中郡大宮町小池古墳群で北尾根地区の木棺墓群・北西尾根地区の土坑墓・土器棺墓<sup>(注6)</sup>があげられる。小池古墳群では、遺構を伴うテラス状地形とそうでないものとがあり、北西尾根地区ではそれが接して位置しており、調査者は後者に祭壇的な性格を考えておられる。本遺跡の場合は、工事中の発見であるので、テラス状地形の意味については今後の課題としておきたい。

また、出土した壺形土器では壺2が山陰地方に多くみられるものである。丹後地域での類例は熊野郡久美浜町権現山古墳GM08出土の壺形土器<sup>(注7)</sup>をあげることができる。この例も合口土器棺として検出されたもので、吾野山遺跡例に相似する。権現山古墳例は体部下半がやや尖り気味で、底部は丸底になっている。本例とは体部下半の形状はやや異なっているが、近い年代を示すものと考えることができよう。

そのほか、昭和初期に発見された土坑墓群と考えられる一群が丘陵上にあり、それらより年代の降る本例が丘陵斜面にあるということは、この丘陵が弥生時代後期以来墓地として使用されていたことを思わせる。おそらく、丘陵の中腹にもこの種の埋葬がまだまだあるものと考えられる。

いずれにせよ、本例の発見は一見遺跡性がみられないような地点での出土であり、今後土木工事等でも注意していく必要があるであろう。

(佐藤晃一＝加悦町教育委員会主事)

注1 永浜宇平編『加悦町誌』1931)

上記の文献に「堅穴式卵坑」と記されているが、その具体的な内容は不明である。

注2 注1に同じ

注3 梅原末治「加悦町大師山ノ古墳」(『京都府史蹟勝地調査会報告』6, 1925)

佐藤晃一「加悦町加悦大師山古墳群について」(『太邇波考古』3, 1983)

注4 加悦大師山東1号墳の箱式石棺より出土。

注5 注1に同じ

注6 鈴木忠司・植山 茂編「小池古墳群」(『大宮町文化財調査報告』3, 1984)

注7 久保哲正編「権現山古墳発掘調査概報」(『久美浜町文化財調査報告』9, 1984)

## 芝山遺跡の発掘調査〈図版第2参照〉

—昭和60年度の調査成果から—

小 池 寛

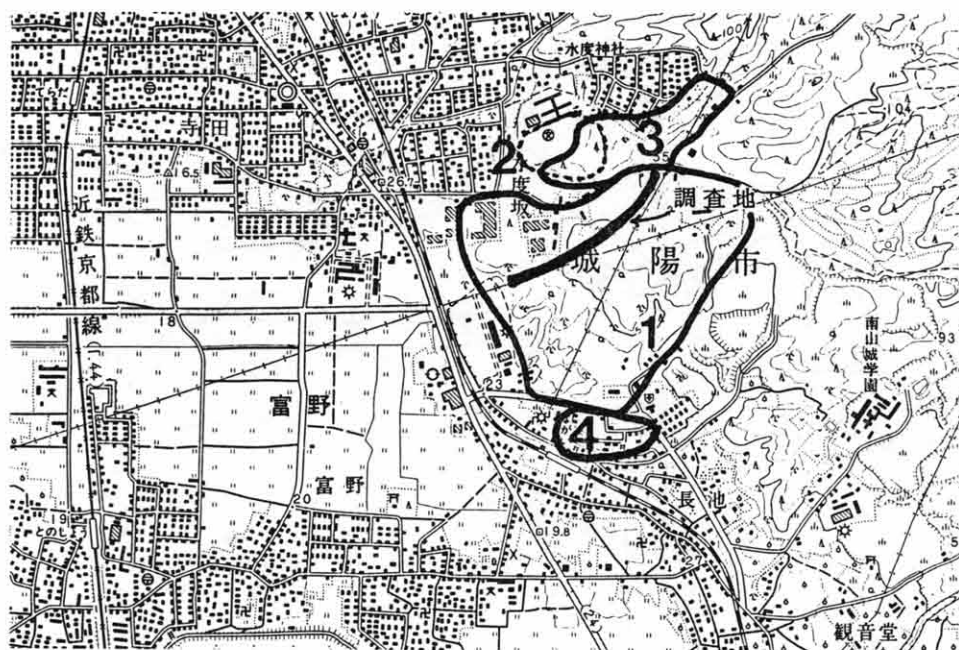
## 1. はじめに

芝山遺跡の発掘調査は、京都府土木建築部道路建設課が計画・施工している山城総合運動公園城陽線道路建設に伴う事前調査である。

芝山遺跡は、昭和52年、城陽市教育委員会によって、方形周溝墓・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡が確認され、今回の調査でも関連の遺構・遺物の検出が予想された。

本概要では、今まで現地説明会や概要報告等で事実報告を行っているため、簡単に概観し、現在、考える問題点について昭和60年度の調査成果から述べていきたいと思う。

なお、本概要で使用する遺構番号は、現地説明会資料に準拠しているが、芝山遺跡は広範囲に及ぶため、今後、遺跡全体での呼称を城陽市教育委員会等関係諸機関と協議し決定



第1図 調査地位置図 (1/25,000)

1. 芝山遺跡 2. 宮ノ平古墳群 3. 宮ノ平遺跡 4. 森山遺跡

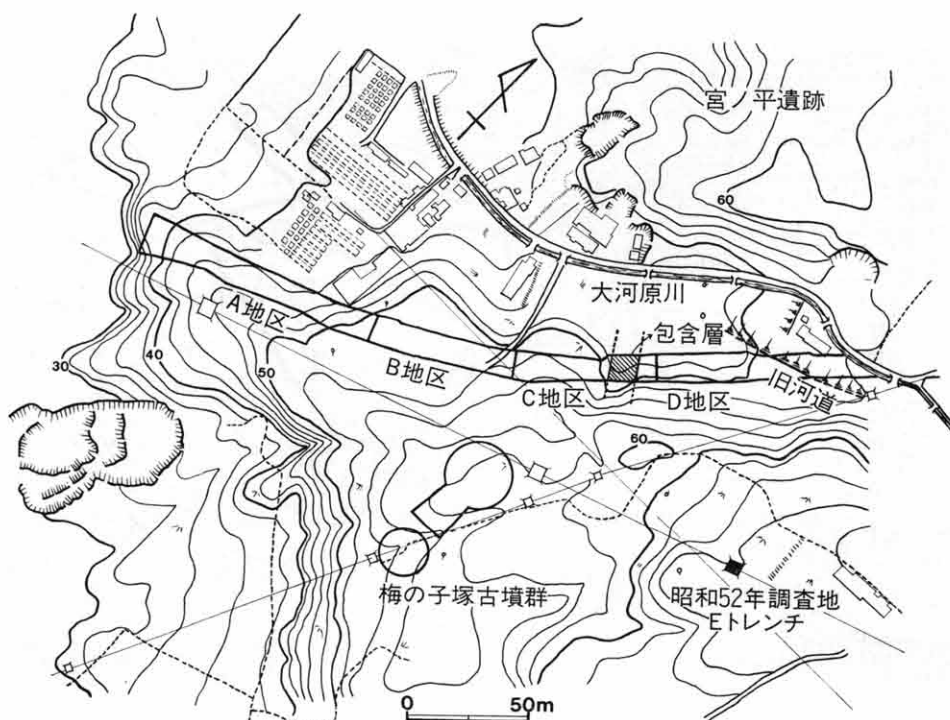
する必要がある。そのため、便宜上の遺構番号であることを明記し、調査終了後、遺構番号の整理を行う予定である。

発掘調査は、当調査研究センター調査課、主任調査員 辻本和美、同調査員 小池 寛が担当し、本概要の執筆・編集は、小池 寛が行った。

調査期間中多くの方々の御教示・御協力を賜った。特に、城陽市教育委員会には、終始、御支援を頂いた。記して深謝する次第である。

## 2. 位置と環境

芝山遺跡は、京都府城陽市大字寺田小字南中ノ芝に所在する(第1図)。当該遺跡が位置する城陽市は、久津川古墳群に代表されるように、南山城で最も古墳が密集する地域である。特に、久津川車塚古墳や松笠文を有する三角縁神獣鏡が出土した芝ヶ原古墳群等、古墳文化を考える上で極めて重要な遺跡が存在する。一方、縄文時代から古墳時代初頭にかけての遺構・遺物を多数検出した森山遺跡は、周辺に類例が見られず、また、重要な遺構が存在するため、現在、史跡指定を受け現地に保存されている。最近、周辺の発掘調査において、新事実の発見が相次ぎ、その重要性が改めて認識されるに至っている。<sup>(注4)</sup>



第2図 地区設定図及び周辺地形図

### 3. 調査概要

調査地は東西に長いので、便宜上、西からA・B・C・D地区に分けた(第2図)。また、全体の様相を知るため道路中央ラインに沿って幅4mのトレンチを設定し、試掘調査を行った。ここでは、特に、A地区について記述し、B・C・D地区については、重要点を整理し、概略することにする。

(1) B地区 調査地内で最も高所(標高51m)に位置する。現在、資材置場になっており、造成時に3～4mの削平を受けたため、遺構・遺物を検出できなかった。条件的には、後述するA地区と同じであり、何らかの遺構・遺物が存在した可能性は十分ある。

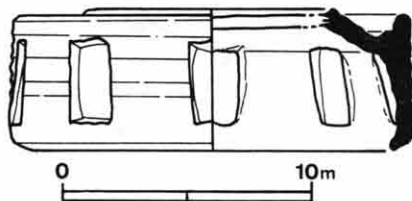
(2) C地区 B地区の同じ平坦面と谷部(標高36m)を含む。明確な遺構を検出できなかったが、遺物を多量に含む包含層を検出した。包含層は、黒褐色土が主体となり、現在でも湧水が顕著に見られる。遺物は、須恵器・土師器が大半を占め、6世紀後半から8世紀前半までのものが見られる。特に、7世紀後半から8世紀前半までの遺物が多い。なお、包含層周辺では円面硯(第3図)が出土している。

(3) D地区 C地区から続く平坦面と微高地を含む。D地区の最東端では、大河原川の旧河道を検出し、その南側に隣接する自然堤防状微高地では、溝・柱穴・土坑等を検出した。溝は、南北に走り大河原川の旧河道に沿って北東方向に走る。断面観察では、2層に分けることができ、下層は古墳時代後半の遺物が入り、上層は奈良時代の遺物が入っている。柱穴は、直径40～70cmの規模で奈良時代に属する。現在、整理中のため正確なことは分からないが、掘立柱建物跡を2棟以上復元できる。土坑は、坑内遺物が僅少であり、性格等不明な点が多い。年代は、掘立柱建物跡と同じ奈良時代である。その他として、明確な遺構には伴っていないが、縄文時代中期末の土器が出土している。

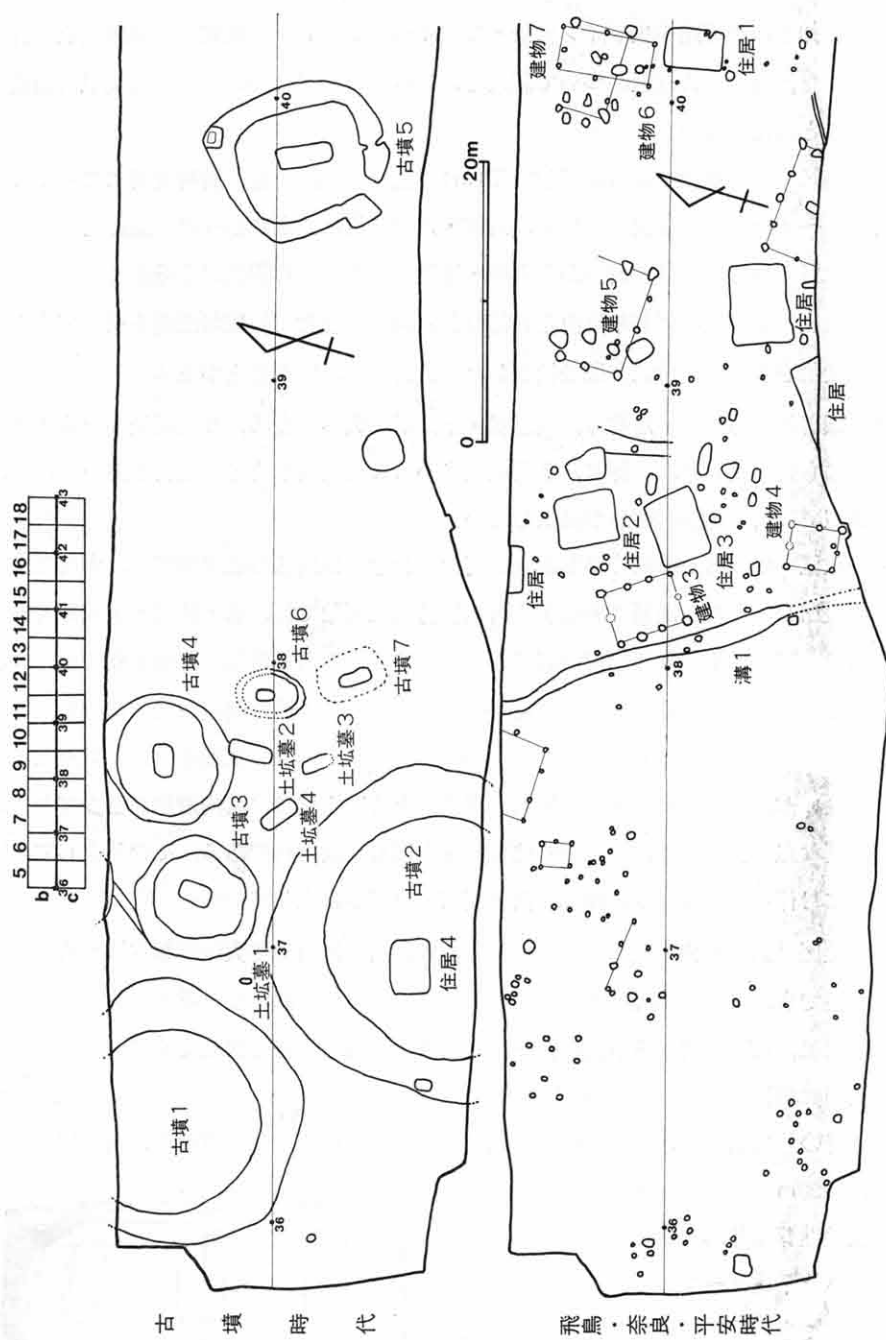
(4) A地区 調査地内で最も西方に位置し、木津川の沖積地や大住車塚古墳が所在する丘陵が一望でき、墓地・住居を選地する上で極めて好条件であったと考えられる。

A地区では、古墳時代から平安時代までの遺構・遺物を良好な状態で検出している。以下、時代順に概観していきたい(第4図)。

〈古墳時代〉 古墳・竪穴式住居跡・土坑・土坑墓等を検出した。古墳1は直径17m、古墳2は直径20mの円墳で、各々、奈良時代に削平を受け埋葬主体部・墳丘は残存しない。周溝の幅は、平均2～3mを測り、2層に分けることができる。下層は黒褐色土で粘性を帯び、上層は暗茶褐色土で奈良時代の遺物とともに鉄製品 鉄鏃・鉄釘・棺金具などが出



第3図 円面硯実測図



第4図 A 地区遺構配置図

土している。これらの鉄製品は、本来、埋葬主体部の副葬品であったと考えられる。また、古墳1・2以西では奈良時代の整地層を確認し、その層内からも鉄製品を検出していることから、これら2基の古墳は、通常見られる程度の墳丘高を有していたと考えられる。古墳3・4は、古墳1・2の北東に隣接する。墳丘は若干の削平を受けているが、埋葬主体部はほぼ完存している。周溝は、平均幅1m・平均深さ0.2mを測る。古墳3の主体部からは須恵器 台付長頸壺・蓋杯を、古墳4からは須恵器 広口壺、鉄製品 刀子が各々出土している。古墳5は、唯一、溝1以東に位置し、南北11m・東西10mの方形墳である。埋葬主体部は、長軸3.3m・短軸1.5mの規模で、主体部南側から須恵器 甕・壺・蓋杯・有蓋高杯が出土している。周溝は、幅1.3~1.8m・深さ0.3~0.5mを測り、最北部溝内には2.2×1mの壇状施設を掘り残しており、壇状施設の中央の竈から須恵器 蓋杯を検出している。一方、最南部は、溝の一部を掘り残し陸橋状施設を設け墓道を構築している。古墳6・7は、長径4.5m・短径3.1mの楕円形を呈する小円墳である。周溝の残存状態は極めて悪く、溝底が残るに過ぎない。古墳6の主体部から須恵器 壺・杯蓋、古墳7の主体部から須恵器 壺、土師器壺が各々出土している。ほかに、古墳2・3・4・6に挟まれるように土壇墓を3基確認している。各々から須恵器 壺・蓋杯が出土している。

住居4は、古墳2の中央で確認し、平面プランは長方形で3.5×2.8mを測る竪穴式住居跡である。住居跡床面直上から古式土師器 甕・高杯・壺・小型丸底土器、石器 砥石が出土している。

〈飛鳥時代〉 検出した遺構を概観すると、竪穴式住居跡6基(住居1・2・3)・溝(1)がある。住居1は、南北3m・東西4mの長方形プランで、側壁の一部を掘り残し竈を構築している。また、住居跡中央に直径20cmの円礫を据えており、床面に柱穴がないことから、この円礫を中心に柱を受けていた可能性がある。住居3は、4×5mの長方形プランを呈し、床面直上から須恵器 杯、土師器 甕・皿・碗等が出土している。溝1は、住居2・3の西側に位置し、幅1~1.5m・深さ0.3mを測る。この溝1を境にして西方には古墳群、東方には竪穴式住居跡群が広がることは、極めて重要な事実である。

〈奈良時代〉 柱穴・土壇・溝等を検出した。現在、整理中であるため掘立柱建物跡が何棟になるか明確ではない。ここでは、建物3について記述し、他は概観したい。建物3は、トレンチのほぼ中央に位置する。柱穴は、直径0.7m程度で、桁行3間(5.4m)・梁行2間(3.6m)の規模を有する。なお、梁行の中央には柱穴はないが、柱間が等間隔であることから柱穴を穿たない方法で柱を受けていた可能性がある。須恵器 蓋杯・壺、土師器 杯・皿等が柱穴内から出土している。他の掘立柱建物跡を概観すると、建物跡の主軸線がほぼ磁北と一致する群・西へ32°前後振る群・西へ12°前後振る群に分けることができるが、各々

の群の時期設定をするには至っていない。

〈平安時代〉 平安時代の遺構・遺物は、他の時代に比べて極端に少なく、時期的な変遷を考えるには資料不足である。建物7は、柱穴の直径が20cmで1間×2間の小規模な建物である。柱穴内で灰釉陶器 壺を検出した。なお、トレンチ内で直径20cm前後の柱穴を多数確認しているが、奈良・平安時代の何れに属するか今後の調査で明らかにしなければならない。

#### 4. 小 結

##### (1) C・D地区の遺構・遺物について

C地区で検出した包含層は、昭和52年に城陽市教育委員会が調査を行ったEトレンチの北斜面に位置する。Eトレンチでは、奈良時代の掘立柱建物跡を多数検出しており、底を持つ建物跡の存在や建物自体の規模等から、一般的な集落ではないことが調査当時から考えられてきた。Eトレンチ周辺の地形は、標高60m前後の平坦面が広がり、一連の建物跡が存在することは十分に考えられる。このことから、C地区の包含層は、この平坦面からの再堆積と考えることができ、包含層中の遺物の量や円面硯が出土していることから、Eトレンチで発見された建物跡は、官衙および寺院の可能性を指摘できる。しかし、現時点では、その何れかを積極的に指示する根拠に乏しいのが現状である。今後、各遺跡の成立年代を詳細に検討する必要がある。

##### (2) A地区の遺構・遺物について

A地区の土地利用は、住居地(布留式併行)→墓地(5世紀末～6世紀代)→住居地(飛鳥時代)→住居地(奈良時代)→住居地(平安時代)と変遷していったことが明らかになった。

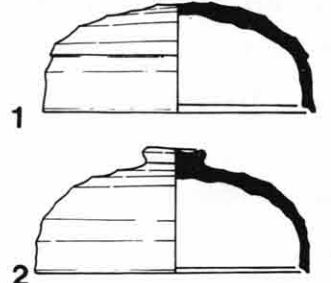
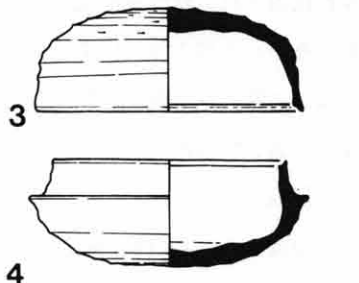
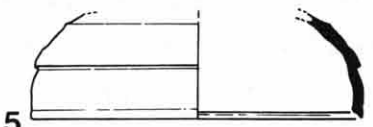
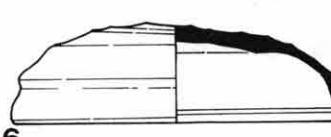
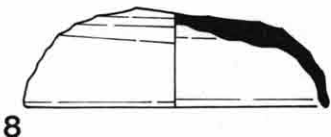
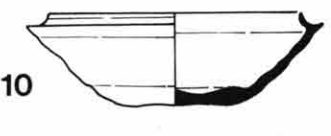
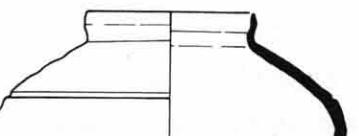
布留式併行の竪穴式住居跡(住居4)は1基しか確認できなかったが、トレンチ以南に広がる可能性は十分あり、集落の北限を確認したと考えると良い状況にある。また、時期的には森山遺跡と同時期であり、一連の集落であるのかどうか、今後、この丘陵を理解する上で極めて重要な事項となろう。

5世紀末～6世紀末に入ると、方形墳・円形墳を主体とする群集墳が築造される。以下、築造順に説明し分類を行う。

古墳5は、周溝内に供献土器を入れたり、周溝の一部を掘り残し陸橋状施設(墓道)を設けている点、それに、低墳丘であること等から、弥生時代の方形周溝墓と共通した部分がある。これは、直接の系譜を引くものではないが、伝統的な葬法が踏襲されたものと解釈できる。古墳1・2は、事実報告でも根拠を示したように、いわゆる高塚であり、石材等が散乱していない状況から主体部は木棺直葬であった可能性が高い。古墳3・4は、主体

部がほぼ完存していることから、古墳5同様、低墳丘であったと考えられる。古墳6・7は、楕円形を呈する小円墳である。やはり、主体部がほぼ完存していることから、マウンドはかなり低かったと考えられる。土坑墓2・3・4は、溝等の施設がなく、古墳2・3・4の間に築造された状況である。

これらの墓を立地条件と墳形および墳丘規模等から分類すると次のようになる。なお、調査地周辺にも同様の古墳が存在することは十分考えられるため、分類にあたり「群」構成を想定し、具体的な古墳名称で代表させることとした(第5図)。

|                                                                                                     |                                                                                                     |                                                      |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
|  <p>1</p> <p>2</p> |  <p>3</p> <p>4</p> | <p>a群</p> <p>1.2<br/>古墳5周溝</p> <p>3.4<br/>古墳5主体部</p> |
|  <p>5</p>          |                                                                                                     | <p>b I群</p> <p>古墳1周溝(下層)</p>                         |
|  <p>6</p>        |  <p>7</p>        | <p>b II群</p> <p>古墳3主体部</p>                           |
|  <p>8</p>        |  <p>9</p>        | <p>b III群</p> <p>古墳6主体部</p>                          |
|  <p>10</p>       |  <p>11</p>       | <p>c群</p> <p>土坑墓 4</p>                               |

第5図 遺物実測図(出土遺構対照表)

a 群；古墳 5 に代表される群…古墳 5 を除くすべての古墳は、溝 1 (後述)以西に築造されているが、古墳 5 は溝 1 以東に築造されている。また、その墳形自体も方形であり、なおかつ、最も古い部類に入ることから、他の古墳とは違った要素を含んでいると考えなければならない。ただ、同一平坦面に存在することや時期的な側面を勘案すれば、被葬者の性格が他の古墳のそれと全く異なるとは言えない。田辺編年・TK47前後<sup>(注5)</sup>に相当する。

b 群は、溝 1 以西に位置する群であるが、墳丘規模等の差異があるため、それらを基にⅠ～Ⅲに細分する。

bⅠ群；古墳 1・2 に代表される群…通常見られる程度の墳丘高を有し、墳丘規模が検出した古墳の中で最大のもの。a 群より後出するが、時期差はほとんどなく、b 群全体の被葬者の性格を考える上で a 群と bⅠ群の比較は重要である。MT15前後に相当する。

bⅡ群；古墳 3・4 に代表される群…規模の面では bⅠ群に次ぐものであるが、墳丘については、a 群と同じく低墳丘である。しかし、墳形の違いや時期幅があることから、直接 a 群の系譜を引くものではない。TK10前後に相当する。

bⅢ群；古墳 6・7 に代表される群…古墳の中でも最小規模の円墳であり、墳形は楕円形を呈する。また、bⅡ群と同じく低墳丘であり、同じ系譜として理解できる。後述する c 群とは周溝の有無のみの違いでしかない。TK43前後に相当する。

c 群；土壇墓 2・3・4 に代表される群…a・b 群の間に位置し、溝等の施設を持たない。また、時期的には、墓地造営の最終末である。TK209前後に相当する。

以上をもって古墳時代のまとめとしたい。

飛鳥時代の堅穴式住居跡は計 6 基確認しており、集落として認識できる。その立地は、すべてが溝 1 以東に造営されており、溝 1 をもって西方が墓域、東方が住居域に分化されている。墓域が成立し衰退するのは、前述したように 5 世紀末から 6 世紀末であるが、飛鳥時代に至っても墓域を認識しながら住居を構えている事実は、古墳を築造した集団と堅穴式住居を造営した集団が極めて密接な関係にあったことを如実に物語っている。しかし、飛鳥時代の造墓行為は、溝 1 以西の墓域ではなされていない。その理由は、奈良時代の社会的背景と大きくかかわっている。

奈良時代に入ると、前述したように掘立柱建物が築かれる。築造にあたり古墳や堅穴式住居を削平し、宅地造成がなされるが、この現象は、古墳や堅穴式住居を造営した集団と掘立柱建物を造営した集団の違いを示すものと理解できる。前述したように、E トレンチの建物が公的なものであると仮定した場合、古墳等を削平して造営された掘立柱建物は、その政治的な背景によって造営されたと考えられる。故に、飛鳥時代の造墓行為は、急激な社会情勢の変化のため、行われなかったと解釈できる。これは、6 基の堅穴式住居跡か

ら出土する土器にあまり時期差がないことから傍証できる。

平安時代の遺構は、現時点では掘立柱建物跡(建物7)を1基確認したに過ぎない。建物の規模自体は小さいが、城陽市内においては同時代の遺構・遺物の類例は少なく、今後、類例の増加を待ち、その性格について検討したいと考えている。

以上、現在考えられることを中心に若干の予察を加え概要報告としたい。なお、A地区の調査は、次年度も引き続き行う予定であり、さらに実態が明らかになるものと思う。

(小池 寛=当センター調査課調査員)

注1 「芝山遺跡発掘調査概要」(『城陽市文化財報告書』第7集 城陽市教育委員会) 1978

注2 昭和61年3月8日に開催した現地説明会資料「芝山遺跡」(京埋セ現地説明会資料No.86-02)。なお、その後の調査の結果、事実報告については、本文で訂正・追加している。

注3 遺構の性格等は除外し、すべてにLocus numberの略号L.N.を冠した。最終報告で遺構番号の整理を行う。

注4 各遺跡については、城陽市教育委員会発刊の『城陽市埋蔵文化財調査報告書』各冊を参照されたい。

注5 田辺昭三『陶邑古窯跡群Ⅰ』(平安学園考古学クラブ) 1966

## 昭和61年度 発掘調査予定の遺跡

杉 原 和 雄

昭和61年度は、当調査研究センターが設立されて、6年目にあたる。本年度の体制は、前年度と同じく、事務局長以下、総務課6名、調査課32名の計39名である。

本年度の発掘調査事業は、すでに発掘調査を実施しているもの及び近く受託が予定されるものは、別表のとおり27件で、遺跡数は42件になり、そのうち2件については遺物整理・報告書の作成を行う。前年度からの継続事業は18件あるが、全体としては、京都国体等に関連する道路事業に伴うものが13件を数え最も多い。以下、調査予定遺跡の概要を記す。

1 正垣遺跡は前年度に弥生時代後期から平安時代に至る集落跡を確認している。今年度はその継続であり、ここでは木製品の出土が期待される。

2 ゲンギョウノ山古墳ほか、3 西小田古墳はいずれも竹野川下流域に位置する後期古墳と予想され、小規模古墳の群構成に新知見が加わるものと思われる。

4 平山谷城館跡ほか、6 田辺城跡は、中・近世の城館跡で、後者は大手門の確認を行う。

5 志高遺跡は、3か年目の調査になり、今年度も縄文・弥生・古墳・奈良時代等の遺構検出が期待される。前年度には鏡や管玉も出土し、多種多様な遺物を持つ複合遺跡である。

9 栗ヶ丘古墳群は、木棺直葬と予想される後期古墳であり、墳丘の残りが良いものもある。

12 千代川遺跡は、丹波国府推定地を含む広大な複合遺跡であるが、前年度から、国府推定域の西端部を南から計画的に面的調査を実施している。今年度は、約2,000m<sup>2</sup>を予定しているが、奈良及び古墳時代の遺構が多数検出される可能性がある。

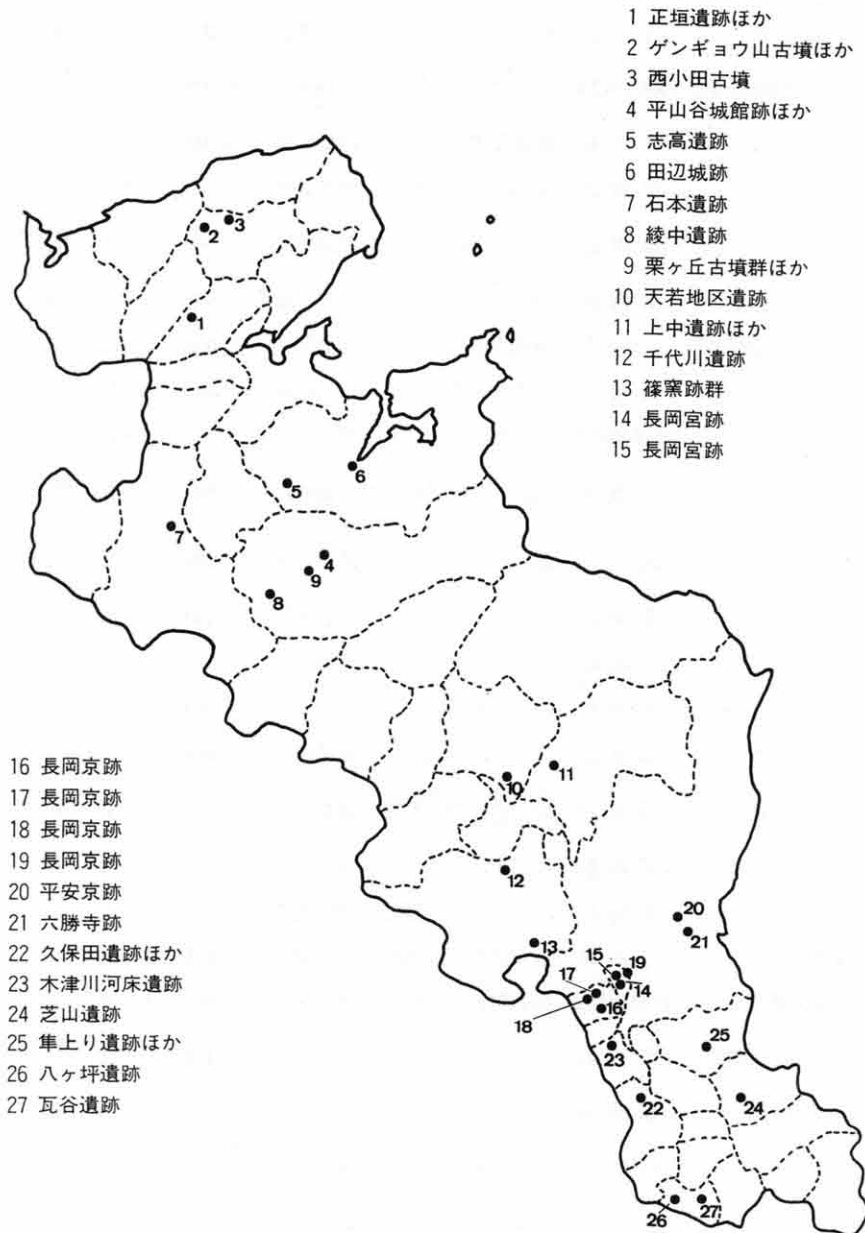
13 篠窯跡群は、京都府教育委員会が昭和51年度に調査を開始し、昭和56年度以降は、当調査研究センターが調査主体者となって実施してきたが、現地調査は本年度をもって終了することとなる。その間、路線内で試掘調査を重ね、最終的に21基の窯体を調査し、コンテナ・パット約3,000箱の遺物を得ている。窯体のうちわが国で初めて検出された三角窯等については、保存協議がなされている。本年度からは、出土遺物の本格的な整理作業を実施し、近く本報告書を作成する予定である。

14・15 長岡官跡の2件は、推定朝堂院西方官衙の一角に当る所で、試掘調査を実施する。

長岡京城の調査は16～19の4件である。16は、長岡京期の遺構のほか、古墳時代中期の塚本古墳の一部に当り、形象埴輪等も出土する可能性が高い。17は、右京二条四坊五・十二・十三町に当り、井ノ内遺跡とも重なるため縄文時代から中世にかけての遺構・遺物も

予想される。19は、左京三条一・八町及び二条三坊四・五町に当り、二条大路や三条第一小路等の側溝の検出が期待できる。

20平安京跡は、左京北辺三坊五町に当り、南側には「内膳町」がある。近辺の調査成果によれば、平安時代の遺構以外にも、それ以前の縄文・弥生時代、以後の中・近世に至る



昭和61年度 発掘調査予定遺跡位置図

昭和61年度 発掘調査予定遺跡一覧表

| 番号 | 名 称             | 種 別   | 所 在 地              | 原因工事  | 調査対象<br>面 積 | 調査予定<br>時 期 | 備 考              |
|----|-----------------|-------|--------------------|-------|-------------|-------------|------------------|
| 1  | 正垣遺跡ほか          | 集 落 跡 | 大宮町, 峰山町           | 圃場整備  | 700         | 4～8         | 継 続              |
| 2  | ゲンギョウノ山古<br>墳ほか | 古墳ほか  | 弥栄町字鳥取ほか           | 国営農場  | 3,000       | 4～10        | 継 続              |
| 3  | 西小田古墳           | 古 墳   | 弥栄町字国久             | 道路建設  | 200         | 9～10        | 新 規              |
| 4  | 平山谷城館跡ほか        | 城館跡ほか | 綾部市七百石町ほ<br>か      | 道路建設  | 4,300       | 4～2         | 整 理 含 む<br>継 続   |
| 5  | 志 高 遺 跡         | 集 落 跡 | 舞鶴市字志高             | 河川改修  | 3,500       | 4～12        | 継 続              |
| 6  | 田 辺 城 跡         | 城 館 跡 | 舞鶴市魚屋ほか            | 舗装修繕  | 50          | 8           | 新 規              |
| 7  | 石 本 遺 跡         | 集 落 跡 | 福知山市石本             | 鉄道建設  | —           | 4～3         | 整 理 ・ 報 告<br>継 続 |
| 8  | 綾 中 遺 跡         | 集 落 跡 | 綾部市西町              | 住宅建設  | 800         | 5～7         | 継 続              |
| 9  | 栗ヶ丘古墳群ほか        | 古墳ほか  | 綾部市小呂町ほか           | 工業団地  | 2,000       | 6～11        | 継 続              |
| 10 | 天若地区遺跡          | 散 布 地 | 日吉町天若              | ダム建設  | 400         | 10～11       | 新 規              |
| 11 | 上中遺跡ほか          | 集落跡ほか | 京北町ほか              | 学校建築  | 3,500       | 8～10        | 継 続              |
| 12 | 千代川遺跡           | 集 落 跡 | 亀岡市千代川町            | 道路建設  | 2,000       | 5～9         | 報 告 含 む<br>継 続   |
| 13 | 篠 窯 跡 群         | 窯 跡   | 亀岡市篠町              | 道路建設  | 200         | 5           | 整 理 含 む<br>継 続   |
| 14 | 長岡宮跡            | 都 城 跡 | 向日市南山              | 庁舎建設  | 400         | 1～3         | 新 規              |
| 15 | 長岡宮跡            | 都 城 跡 | 向日市上植野             | 庁舎建設  | 370         | 4～6         | 新 規              |
| 16 | 長岡京跡            | 都 城 跡 | 長岡京市開田             | 交通安全  | 100         | 10          | 新 規              |
| 17 | 長岡京跡            | 都 城 跡 | 向日市, 長岡京市          | 道路改良  | 800         | 9～11        | 継 続              |
| 18 | 長岡京跡            | 都 城 跡 | 向日市, 長岡京市,<br>大山崎町 | 道路建設  | —           | 8～2         | 立 会 調 査<br>継 続   |
| 19 | 長岡京跡            | 都 城 跡 | 向日市, 京都市           | 橋 架 替 | 1,000       | 4～7         | 継 続              |
| 20 | 平安京跡            | 都 城 跡 | 京都市上京区烏丸           | 施設建築  | 2,000       | 9～3         | 新 規              |
| 21 | 六勝寺跡            | 寺 院 跡 | 京都市左京区岡崎           | 住宅建設  | 875         | 8～10        | 新 規              |
| 22 | 久保田遺跡ほか         | 散布地ほか | 田辺町大住ほか            | 道路建設  | 1,900       | 4～2         | 継 続              |
| 23 | 木津川河床遺跡         | 集 落 跡 | 八幡市八幡              | 施設新築  | 1,415       | 5～10        | 立 会 含 む<br>継 続   |
| 24 | 芝 山 遺 跡         | 集 落 跡 | 城陽市寺田              | 道路改良  | 1,200       | 5～7         | 継 続              |
| 25 | 隼上り遺跡ほか         | 集落跡ほか | 宇治市寛道              | 道路建設  | —           | 4～3         | 整 理 ・ 報 告<br>継 続 |
| 26 | 八ヶ坪遺跡           | 散 布 地 | 木津町相楽              | 道路建設  | 480         | 6～7         | 新 規              |
| 27 | 瓦谷遺跡ほか          | 散布地ほか | 木津町市坂ほか            | 宅地造成  | 4,000       | 4～2         | 継 続              |

様々なものが検出されているので多大な資料が得られるものと考えられる。

21六勝寺跡は、院政期に建立された著名な寺院であるが、今回の対象地は、そのうちの尊勝寺跡に比定されている所である。尊勝寺跡は昭和34年以来幾度か発掘調査され、中門や金堂の配置も推定されているが、なお不明な点も多い。

22久保田遺跡ほかは、散布地3か所と城館跡について調査を実施する。

23木津川河床遺跡は、約1,500m<sup>2</sup>を予定しているが、今年は弥生時代の遺構も予想される。

24芝山遺跡は、前年度に約4,000m<sup>2</sup>の調査を行い、6世紀代の古墳8基のほか、7世紀の竪穴式住居跡7基、奈良～平安時代の建物跡等が検出されている。継続調査である。

26八ヶ坪遺跡は、奈良時代の集落跡と推定されている所である。

27は、瓦谷遺跡、上人ヶ平遺跡等で、いずれも広域遺跡であり、その一部を調査する。

7石本遺跡、25隼上り遺跡ほかについては、整理・報告書作成を行う。

以上が発掘調査事業の予定であるが、このほか研修会を年6回、講演会を1回実施する。刊行物は、年4回の『京都府埋蔵文化財情報』をはじめ、各遺跡の調査報告書を刊行する。また、設立五周年を期して、理事、職員及び関係機関職員等が一文を草し記念誌を刊行する計画がある。恒例の展覧会は、今年度も8月下旬に向日市文化資料館の協力を得て、同館内で開催する予定であり、出陳物はその後京都府立山城郷土資料館主催により企画展示される予定もある。研究助成事業は、「京都府における弥生式土器の編年の研究」をテーマに4年度目として山城地域を中心に実施される。

コンピュータの導入は、数年来の懸案事項であったが、60年度下半期にNEC・PC9801 VM4及び附属機器を設置し、とりあえず試行として、遺跡データベース、文献目録、住所録、木簡カード等について一部入力を行った。今年度以降は本稼働させ、充分活用していきたいと考えている。

昨年度は、秋に、中国陝西省文物管理委員会・范培松氏の文化財保護研修の受入れや、堤調査課長が「京都府文化財保護視察団」の副団長として陝西省へ派遣されるなど中国との文化交流が行われ、当調査研究センターに新風がもたらされた年であった。今年は6年目を迎えるが、惰性に流されることなく、新たな出発の年としたいものである。

(杉原和雄＝当センター調査課 課長補佐)

## 昭和60年度 京都府下埋蔵文化財の調査

山 口 博

昭和60年度、当調査研究センターが実施した発掘調査は60か所に及び、その他、石本遺跡等5件の整理事業を行った。各調査の一覧は、別表のとおりであるが、前年度に比べ大幅に増加していることがわかる。地域的に見ると、丹後地域が前年度に比べ増加している。これは、国営・府営の農地開発事業・ほ場整備事業に伴うものである。丹後地域では、これら農地開発事業・ほ場整備事業が大規模に計画されており、今後調査の増加が予想される。また、中丹・南丹地域では、道路建設に伴う調査が多く、計15か所の調査を行った。これら道路建設に伴う調査のうち、近畿自動車道舞鶴線建設に伴う調査は、福知山市長田野までの区間の調査が昭和60年度で終了し、今後は綾部・舞鶴市域の遺跡へと移っていく。また、国道9号線バイパスに伴う調査も、篠簾跡群がほぼ終了した。南山城地域では、京滋・京奈バイパス等道路建設に伴う調査とともに、団地造成工事に伴う調査が大きな比重を占めている。

それでは、昨年度行った発掘調査のうち主だったものについて、以下地域毎に簡単に述べていきたい。また、当調査研究センターのほか、京都府教育委員会・各市町村教育委員会等も調査を行っており、その他の関係機関の調査として少し紹介しておきたい。

なお、昨年度当調査研究センターが行った調査では、有明古墳、薬王寺4・5号墳、栗ヶ丘3・5号墳、郷土塚4号墳等、古墳の調査が目立った。

**丹後・与謝地域の調査** この地域では、正垣遺跡(1)・有明古墳(2)・下畑遺跡(4)等計7か所の調査を行った。

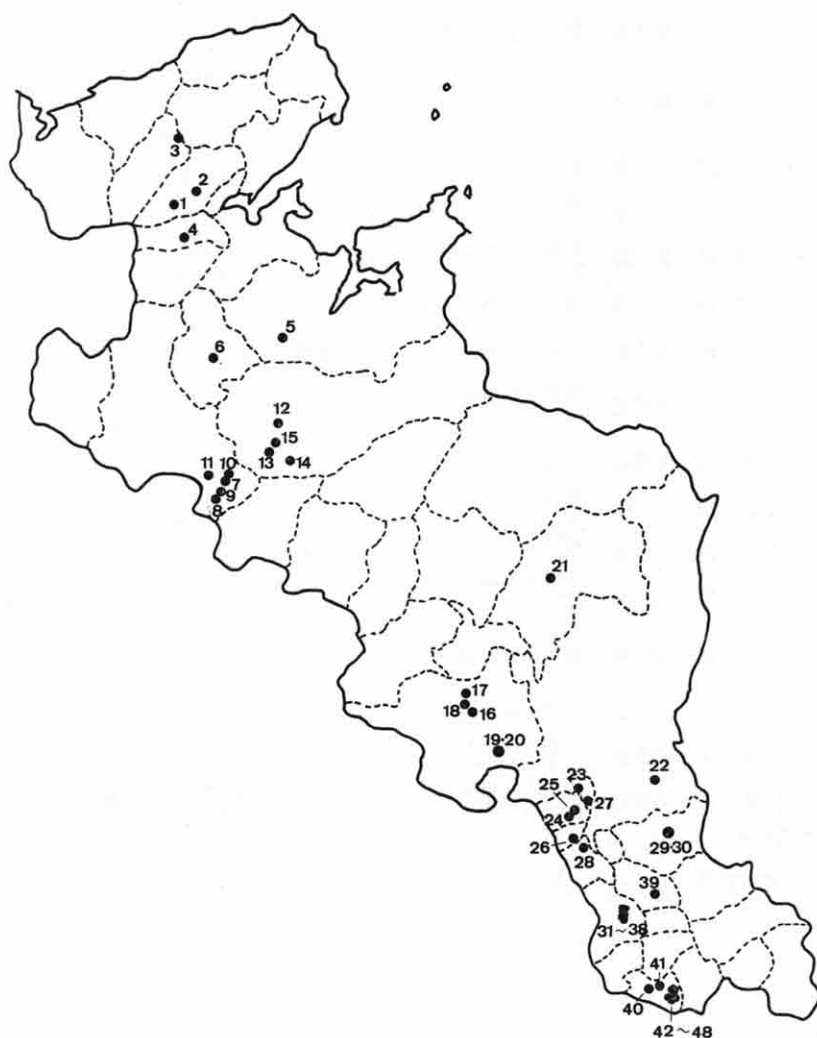
**正垣遺跡(1)**では、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や井戸、古墳時代後期の竪穴式住居跡、弥生時代後期の竪穴式住居跡・流路等を検出した。出土遺物には、須恵器・土師器・黒色土器等のほか、墨書土器・緑釉陶器・石製の巡方等がある。また、弥生時代後期の流路からは、多量の弥生土器とともに、琴状木製品・匙・舟形木製品等多数の木製品が出土した。この遺跡は、昭和61年度にも引き続いて調査を行っている。

**有明古墳(2)**は、桃山1・2号墳(3)とともに、国営農地開発事業に伴い調査したものである。尾根上では、方墳を2基検出し、腹部で横穴墓を3基確認した。また、裾部で竪穴式住居跡を検出している。尾根上の方墳のうち1基からは、尾根の主軸と直交する長さ

約7.2m・幅約1m・深さ約1mの主体部が検出され、坑内からは、刀子1点・鉄鏃1点・  
 竪櫛3点が出土した。横穴墓は、丘陵の東斜面に立地し、袋状の平面形を呈する。横穴内  
 からは、多数の人骨とともに、土師器・須恵器・刀子等が出土した。また、竈や甕の羽口  
 等も出土している。桃山1・2号墳(3)は、丘陵の尾根先端に立地する、径19mと11mの円  
 墳である。木棺直葬による埋葬施設を有し、須恵器・土師器・鉄刀・鉄鏃・刀子・轡・管  
 玉・勾玉・ガラス小玉が出土した。

下畑遺跡(4)では、弥生時代の溝や土壇を検出した。

中丹地域の調査 この地域では、志高遺跡(4)・大内城跡(8)・栗ヶ丘古墳群(12)・青



調査地位置図

昭和60年度 発掘調査実施遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名称            | 種別  | 所在地                  | 担当者                     | 調査期間                                                                | 概要                                         |
|----|-----------------|-----|----------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 1  | 正垣遺跡            | 散布地 | 中郡大宮町奥大野<br>小字正垣     | 竹原 一彦                   | 60.10.1<br>～61.3.25                                                 | 竪穴式住居10基・<br>掘立柱建物                         |
| 2  | 有明古墳            | 古墳  | 中郡大宮町三坂小<br>字有明      | 増田 孝彦                   | 60.11.18<br>～61.3.23                                                | 方形墳2基・横穴<br>墓3基・竪穴式住<br>居                  |
| 3  | 桃山1・2号墳         | 〃   | 中郡峰山町内記小<br>字桃山      | 三好 博喜                   | 60.11.27<br>～61.3.24                                                | 円墳2基(木棺直<br>葬)                             |
| 4  | 下畑遺跡            | 集落跡 | 与謝郡野田川町三<br>河内       | 竹原 一彦                   | 60.5.20<br>～60.7.19                                                 | 溝                                          |
| 5  | 志高遺跡            | 集落跡 | 舞鶴市志高小字舟<br>戸        | 山下 正<br>肥後 弘幸           | 60.5.20<br>～61.3.20                                                 | 竪穴式住居・掘立<br>柱建物・流路・縄<br>文土器・銅鏡・石<br>剣等が出土。 |
| 6  | 河守遺跡            | 散布地 | 加佐郡大江町河守             | 三好 博喜                   | 60.5.20<br>～60.10.18                                                | 杭列・銅鈴が出土。                                  |
| 7  | 多保市遺跡           | 散布地 | 福知山市大字多保<br>市小字薬王寺   | 藤原 敏晃                   | 60.5.9<br>～60.5.30                                                  | 竪穴式住居                                      |
| 8  | 大内城跡            | 城跡  | 福知山市大字大内<br>小字平城     | 藤原 敏晃                   | 60.8.27<br>～60.10.4<br>61.3.3<br>～61.3.30                           | 土塁・空堀・竪穴<br>式住居                            |
| 9  | 仁田城跡            | 城跡  | 福知山市大字宮小<br>字城山      | 藤原 敏晃                   | 60.6.27<br>～60.8.23                                                 | 土塁・空堀                                      |
| 10 | 薬王寺4・5号<br>墳    | 古墳  | 福知山市大字多保<br>市小字薬王寺   | 山下 正<br>藤原 敏晃           | 60.5.9<br>～60.7.20                                                  | 箱式石棺2基                                     |
| 11 | 和田賀遺跡           | 散布地 | 福知山市長田878-<br>2      | 肥後 弘幸                   | 60.9.26<br>～60.11.13                                                | 近世墓                                        |
| 12 | 栗ヶ丘古墳群          | 古墳  | 綾部市小呂町田坂             | 伊野 近富                   | 60.11.29<br>～61.3.27                                                | 木棺直葬                                       |
| 13 | 綾中遺跡            | 集落跡 | 綾部市西町三丁目             | 伊野 近富<br>西岸 秀文          | 60.4.17<br>～60.10.15                                                | 掘立柱建物・溝                                    |
| 14 | 味方遺跡            | 集落跡 | 綾部市味方町中ノ<br>坪        | 西岸 秀文                   | 60.8.5<br>～60.10.5                                                  | 竪穴式住居5基・<br>掘立柱建物3棟・<br>溝                  |
| 15 | 青野遺跡            | 集落跡 | 綾部市青野吉美前             | 森下 衛                    | 60.6.21<br>～60.8.6                                                  | 溝・土坑                                       |
| 16 | 小金岐4号墳          | 古墳  | 亀岡市大井町小金<br>岐        | 引原 茂治                   | 60.6.14<br>～60.8.9                                                  | 横穴式石室                                      |
| 17 | 千代川遺跡           | 集落跡 | 亀岡市千代川町北ノ<br>庄       | 森下 衛                    | 60.8.28<br>～61.1.14                                                 | 竪穴式住居・掘立<br>柱建物・井戸・溝                       |
| 18 | 湯井1号墳           | 古墳  | 亀岡市千代川町湯<br>井        | 森下 衛<br>西岸 秀文           | 61.1.21<br>～61.2.21                                                 | 顕著な遺構なし                                    |
| 19 | 篠窯跡群            | 窯跡  | 亀岡市篠町篠ほか             | 引原 茂治<br>竹井 治雄<br>岡崎 研一 | 60.5.7<br>～61.3.28                                                  | 窯跡2基・焼土坑<br>3基・柱穴                          |
| 20 | 西前山窯跡           | 窯跡  | 亀岡市篠町森               | 水谷 寿克                   | 60.11.20<br>～61.2.27                                                | 窯跡1基・焼土坑<br>2基                             |
| 21 | 上中遺跡            | 集落跡 | 北桑田郡京北町大<br>字下弓削小字鳥谷 | 増田 孝彦                   | 60.5.13<br>～60.9.14                                                 | 土坑                                         |
| 22 | 山科本願寺跡          | 寺院跡 | 京都市山科区東野<br>舞台町      | 黒坪 一樹                   | 60.10.29<br>～60.12.14                                               | 礎敷                                         |
| 23 | 長岡宮跡第164<br>次   | 都城  | 向日市寺戸町西ノ<br>段        | 石尾 政信                   | 60.9.2<br>～60.11.2                                                  | 掘立柱建物・緑釉<br>唾壺が出土。                         |
| 24 | 長岡京跡右京第<br>193次 | 都城  | 長岡京市友岡1丁<br>目        | 石尾 政信                   | 60.7.5<br>～60.8.22                                                  | 自然流路                                       |
| 25 | 長岡京跡右京第<br>194次 | 都城  | 長岡京市開田3丁<br>目        | 黒坪 一樹                   | 60.6.19<br>～60.8.2                                                  | 西二坊坊間小路両<br>側溝                             |
| 26 | 長岡京跡右京第<br>206次 | 都城  | 大山崎町円明寺門<br>田ほか      | 長谷川 達<br>竹原 一彦          | 60.9.9<br>～60.9.14<br>60.11.8<br>～60.11.11<br>60.12.10<br>～60.12.19 | 溝状遺構                                       |

| 番号 | 遺 跡 名 称     | 種 別 | 所 在 地            | 担 当 者          | 調 査 期 間                  | 概 要              |
|----|-------------|-----|------------------|----------------|--------------------------|------------------|
| 27 | 長岡京跡左京第124次 | 都 城 | 向日市鶏冠井町西金村       | 村尾 政人          | 60. 5. 8<br>～60. 8. 30   | 竪穴式住居・掘立柱建物・土坑   |
| 28 | 木津川河床遺跡     | 集落跡 | 八幡市八幡一丁目・焼木      | 岩松 保           | 60. 4. 23<br>～60. 11. 30 | 竪穴式住居4基・溝・土坑     |
| 29 | 隼上り遺跡       | 集落跡 | 宇治市菟道西隼上り        | 荒川 史           | 60. 4. 16<br>～60. 8. 30  | 柱穴・土坑・溝          |
| 30 | 隼上り1号墳      | 古 墳 | 宇治市菟道東隼上り        | 荒川 史           | 60. 7. 29<br>～60. 11. 27 | 横穴式石室・特殊扁壺出土     |
| 31 | 郷土塚4号墳      | 古 墳 | 綴喜郡田辺町大字大住小字西山   | 石井 清司          | 60. 7. 18<br>～60. 10. 5  | 横穴式石室・鉄刀、鉄鉋が出土   |
| 32 | 畑山2号墳       | 古 墳 | 綴喜郡田辺町大字薪小字畑山    | 石井 清司<br>黒坪 一樹 | 60. 10. 7<br>～61. 3. 25  | 横穴式石室            |
| 33 | 畑山3号墳       | 古 墳 | 綴喜郡田辺町大字薪小字畑山    | 石井 清司          | 60. 10. 7<br>～60. 11. 2  | 横穴式石室・銅碗が出土      |
| 34 | 西山古墳第1・第2地点 | 古 墳 | 綴喜郡田辺町大字薪小字溜池    | 石井 清司<br>黒坪 一樹 | 60. 10. 7<br>～60. 12. 4  | 顕著な遺構なし          |
| 35 | 岡村古墳        | 古 墳 | 綴喜郡田辺町大字大住小字姫ノ垣内 | 石井 清司<br>黒坪 一樹 | 61. 2. 5<br>～61. 2. 14   | 〃                |
| 36 | 野上遺跡        | 散布地 | 綴喜郡田辺町大字大住小字三本木  | 石井 清司          | 61. 1. 17<br>～61. 3. 25  | 〃                |
| 37 | 狼谷遺跡        | 散布地 | 綴喜郡田辺町大字薪小字小林・狼谷 | 石井 清司          | 60. 6. 10<br>～60. 7. 27  | 土師器、縄文土器が出土      |
| 38 | 大欠遺跡        | 散布地 | 綴喜郡田辺町大字薪小字大欠    | 石井 清司          | 60. 11. 5<br>～60. 11. 13 | 顕著な遺構なし          |
| 39 | 芝山遺跡        | 散布地 | 城陽市大字寺田小字南中ノ芝    | 小池 寛           | 60. 5. 21<br>～61. 3. 25  | 古墳7基・竪穴式住居・掘立柱建物 |
| 40 | 木津遺跡        | 散布地 | 相楽郡木津町大字木津小字南垣外  | 小山 雅人          | 60. 10. 7<br>～61. 1. 18  | 土坑・溝             |
| 41 | 燈籠寺遺跡       | 散布地 | 相楽郡木津町大字木津小字内田山  | 戸原 和人          | 60. 7. 29<br>～60. 10. 8  | 顕著な遺構なし          |
| 42 | 北中ノ谷古墳      | 古 墳 | 相楽郡木津町大字梅谷小字北中ノ谷 | 小山 雅人<br>戸原 和人 | 60. 5. 8<br>～60. 7. 4    | 〃                |
| 43 | 中山古墳        | 古 墳 | 相楽郡木津町大字梅谷小字中山   | 小山 雅人<br>戸原 和人 | 60. 5. 4<br>～60. 8. 4    | 〃                |
| 44 | 中ノ平古墳       | 古 墳 | 相楽郡木津町大字梅谷小字中ノ平  | 小山 雅人<br>戸原 和人 | 60. 7. 26<br>～60. 10. 9  | 〃                |
| 45 | 奥ヶ平遺跡       | 散布地 | 相楽郡木津町大字梅谷小字奥ヶ平  | 戸原 和人<br>小山 雅人 | 60. 7. 11<br>～60. 8. 10  | 〃                |
| 46 | 中ノ島遺跡       | 散布地 | 相楽郡木津町大字梅谷小字中ノ島  | 戸原 和人          | 60. 11. 11<br>～61. 3. 8  | 瓦窯の灰原            |
| 47 | 中ノ平遺跡       | 散布地 | 相楽郡木津町大字梅谷小字中ノ平  | 小山 雅人<br>戸原 和人 | 60. 8. 22<br>～60. 9. 2   | 顕著な遺構なし          |
| 48 | 菩提遺跡        | 散布地 | 相楽郡木津町大字市坂小字菩提   | 小山 雅人          | 61. 1. 20<br>～61. 3. 17  | 〃                |

野遺跡(15)等13か所の調査を行った。

志高遺跡(5)の調査は、由良川の河川改修工事に伴うもので、奈良・平安時代の掘立柱建物跡、古墳時代の竪穴式住居跡・溝・土坑、弥生時代中期の竪穴式住居跡・溝・土坑や弥生時代から古墳時代にかけての旧河道等を検出した。また、縄文時代前期の包含層が確認された。出土遺物には、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器のほか、銅鏡・管玉・石剣・石斧・石鏃・石匙・石錘等がある。このうち銅鏡は、面径約6cmを測る小型の仿製鏡で、古墳時代の包含層から出土した。

河守遺跡(6)では、時期は不明であるが銅鈴が出土している。

多保市遺跡(7)は、大内城跡(8)・仁田城跡(9)・薬王寺4・5号墳(10)とともに、近

畿自動車道舞鶴線の建設に伴い調査したものである。この遺跡では、奈良時代の竪穴式住居跡を1基検出した。大内城跡(8)では、城の土塁や堀を確認するとともに、下層で古墳時代の竪穴式住居跡を検出した。薬王寺4・5号墳(10)は、それぞれ箱式石棺を埋葬施設とする古墳である。4号墳の棺内からは、鉄鏃が19本出土している。築造時期は、6世紀前半に比定される。

栗ヶ丘古墳群(12)は、綾部工業団地造成工事に伴い調査したものである。6世紀前～中葉にかけての木棺直葬の円墳を2基調査した。また、試掘調査で古墳の存在を確認した。

味方遺跡(14)は、国道171号線新丹波大橋橋梁新設工事に伴い調査したもので、弥生時代の円形竪穴式住居跡2基、古墳時代の方形竪穴式住居跡3基、奈良時代の掘立柱建物跡等が検出された。古墳時代の竪穴式住居跡のうち2基は、竈を造る際に住居の一部を掘り残して煙道部を設ける、いわゆる青野型住居である。住居内からは6世紀後半の遺物が出土している。

南丹・北桑田地域の調査 この地域では、千代川遺跡(17)・篠窯跡群(19)・上中遺跡(21)等10か所の調査を行った。

千代川遺跡(17)は、小金岐4号墳(16)・湯井1号墳(18)とともに、国道9号線亀岡バイパス建設工事に伴う調査である。推定丹波国府跡の西辺にも当り、弥生時代後期の竪穴式住居跡1基、奈良・平安時代の掘立柱建物跡2棟、鎌倉時代の掘立柱建物跡3棟、井戸1基等を検出した。奈良・平安時代の建物は、棟方向が真北を指さず、大きく振れて建てられている。

篠窯跡群(19)は、国道9号線老ノ坂亀岡バイパス建設に伴う調査で、登窯2基・円形焼土坑等を検出した。このうち西長尾奥第2窯跡群1号窯は、8世紀後半の窯跡で、調査された篠窯跡群の窯跡では最も年代の古い窯跡の1つである。また、長さ約8.8m・幅約1.8mと最大規模を測り、大甕の破片が多量に出土したことは、他の窯跡に見られない特色である。また、京都府の砂防工事に伴い篠窯跡群の西前山窯跡(20)も調査した。

京都・乙訓地域の調査 この地域では、山科本願寺跡(22)・長岡宮・京跡(23～27)等6か所の発掘調査と立会調査1件を行った。

長岡宮跡第164次調査(23)では、長岡京期の掘立柱建物跡や土坑等を検出し、墨書土器〔内カ〕(「□人給」)・軒瓦・緑釉唾壺等が出土した。緑釉唾壺は、土坑内から釘とともに出土しており、木櫃に納められていた可能性が高い。長岡京跡右京第194次調査(25)では、西二坊坊間小路の東西両側溝や長岡京期の掘立柱建物跡等を検出した。両側溝間は、溝心で約8.6mを測る。墨書土器(「田」)・製塩土器等が出土している。

南山城地域の調査 この地域では、木津川河床遺跡(28)・郷土塚4号墳(31)・芝山遺跡

(39)・木津遺跡(40)・中ノ島遺跡(46)等23か所の調査を行った。

木津川河床遺跡(28)では、古墳時代後期の竪穴式住居跡4基を検出した。また、隼上り1号墳(30)は、横穴式石室を埋葬施設とする6世紀後半築造の古墳である。出土遺物には、特殊扁壺等がある。

郷土塚4号墳(31)は、畑山2・3号墳(32・33)・西山古墳第1・第2地点(34)・岡村古墳(35)・野上遺跡(36)・狼谷遺跡(37)・大欠遺跡(38)とともに、京奈バイパス建設工事に伴い調査したものである。この郷土塚4号墳(31)では、玄室床面に礫敷きを持つ横穴式石室を検出し、須恵器・土師器のほか鉄鏃・鉄刀・鉄鉗等が出土した。畑山2号墳(32)は、排水溝を有した横穴式石室を埋葬施設とする古墳で、凝灰岩製の家形石棺の破片が出土した。畑山3号墳(33)も横穴式石室を埋葬施設とする古墳で、銅椀が出土した。

芝山遺跡(39)は、山城運動公園城陽線道路建設工事に伴い調査したものである。古墳時代後期の古墳・竪穴式住居跡、飛鳥時代の竪穴式住居跡、奈良・平安時代の掘立柱建物跡等を検出した。出土遺物には、縄文土器もある。この遺跡は、今年度も引き続き調査を行っている。

中ノ島遺跡(46)は、北中ノ谷古墳(42)・中山古墳(43)・中ノ平古墳(44)・奥ヶ平遺跡(45)・中ノ平遺跡(47)・菩提遺跡(48)とともに、住宅・都市整備公団の団地造成工事に伴うものである。この遺跡は、梅谷瓦窯跡の隣接地で、瓦窯の灰原を検出した。灰原からは、奈良興福寺の創建時に使用された軒瓦が出土している。

その他関係機関の調査 丹後地域では、京都府教育委員会が大田鼻横穴群の調査を行った。この横穴群は、帯城墳墓群のある丘陵南斜面に位置し、前述した有明横穴群と指呼の間にある。19基の横穴を検出し、多数の遺物が出土した。築造は、8世紀初頭まで行われている。網野町教育委員会は、三宅遺跡の調査を行い、史跡銚子山古墳の周濠を確認した。

中丹地域では、舞鶴市教育委員会が林溪寺裏山中世墓等、福知山市教育委員会が中ノ段4号墳等、綾部市教育委員会が西町大坪遺跡等の調査をそれぞれ行っている。綾部市の西町大坪遺跡では、竪穴式住居跡・掘立柱建物跡等が検出された。竪穴式住居跡は、いわゆる青野型の竈を持っていた。この調査によって、当遺跡では竪穴式住居が8世紀中葉まで存続することが明らかとなった。

南丹地域では、亀岡市教育委員会が丹波国分寺跡の調査を行い、僧坊跡が検出された。この建物跡は、根石や礎石が残り、梁行の規模が4間であることが確認された。

京都市内では、京都市埋蔵文化財調査センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所・(財)平安博物館・京都大学等が、平安宮・京跡、鳥羽離宮跡、栗栖野瓦窯跡、京都大学校内遺跡等の調査を行っている。平安京跡では、西靱負小路の側溝を検出した調査や、7間×4間

の大規模な建物をはじめ計6棟の掘立柱建物跡が検出された調査等がある。西靱負小路の側溝を検出した調査では、木杵や多数の木簡が出土した。木簡には、大同2年の紀年銘のものがある。栗栖野瓦窯跡では、奈良時代前期、平安時代前期・後期の窯跡計10基を検出した。そのうち奈良時代前期の窯跡からは、窯詰めされた状態で瓦が検出された。

乙訓地域では、向日市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会等が長岡宮・京跡等の調査を行っている。主要な調査には、長岡宮の礎石建物跡を検出した宮跡第161次調査、南一条条間大路南側溝から建築部材名の記された木簡の出土した左京第130次調査、古墳時代の竪穴式住居跡を多数検出した右京第188次調査、弥生時代の竪穴式住居跡や方形周溝墓がまとまって検出された右京第187・209次調査等がある。

南山城地域では、宇治市教育委員会が縄文時代晩期の貯蔵穴を検出した寺界道遺跡、金堂跡等の基壇を検出した岡本廃寺等の調査を行っている。精華町では、(財)平安博物館が畑ノ前遺跡の調査を行い、奈良時代の掘立柱建物跡や井戸、古墳時代末期の円墳等多数の遺構を検出した。また、前方後方墳であることが判明した田辺町教育委員会の大住南塚古墳の調査、金堂の全容を明らかにした山城町教育委員会の高麗寺跡の調査等がある。

以上、昭和60年度の京都府下の調査について、当調査研究センターの調査を中心に簡単に紹介してきた。その詳細については各報告書・現地説明会資料を参照されたい。また京都府教育委員会が、『埋蔵文化財発掘調査概報』の中で毎年府下の調査一覧をまとめているので、それらも御参考いただきたい。

## 昭和60年度発掘調査略報

## 25. 正 垣 遺 跡

所在地 中郡大宮町大字奥大野小字正垣ほか  
 調査期間 昭和60年10月1日～昭和61年3月25日  
 調査面積 約700m<sup>2</sup>

はじめに 正垣遺跡は、昭和61年度府営は場整備事業大宮地区奥大野工区の施工に伴い、発掘調査を実施した遺跡である。中郡大宮町は丹後半島の基部中央に位置し、町内中央を北流する竹野川の流域には平野が開けている。正垣遺跡は、竹野川とその支流の常吉川の合流部から西南約1.3kmの低位段丘及び扇状地上に立地している。遺跡は網野街道沿いの西側、鞍禿山麓の東裾部に位置している。この地は古代は丹後国大野郷(和名抄)、中世は倉垣庄(丹後国田数帳)に比定されている。

調査成果 調査対象地約4.5haに30か所の試掘坑を設け、正垣遺跡の広がりを確認した後、4か所の試掘坑で拡張を行い、トレンチ掘りによる本調査を行った。調査の結果、調査地内から多数の柱穴群、竪穴式住居跡群等の遺構を検出した。検出した遺構は、弥生時代後期～鎌倉時代に属するものであった。以下、時代別に検出遺構を記す。

弥生時代後期 竪穴式住居跡1基・河川跡

古墳時代後期 竪穴式住居跡7基・柱穴

奈良～平安時代 掘立柱建物跡7棟・柱穴群・井戸跡1基・土壇・溝等

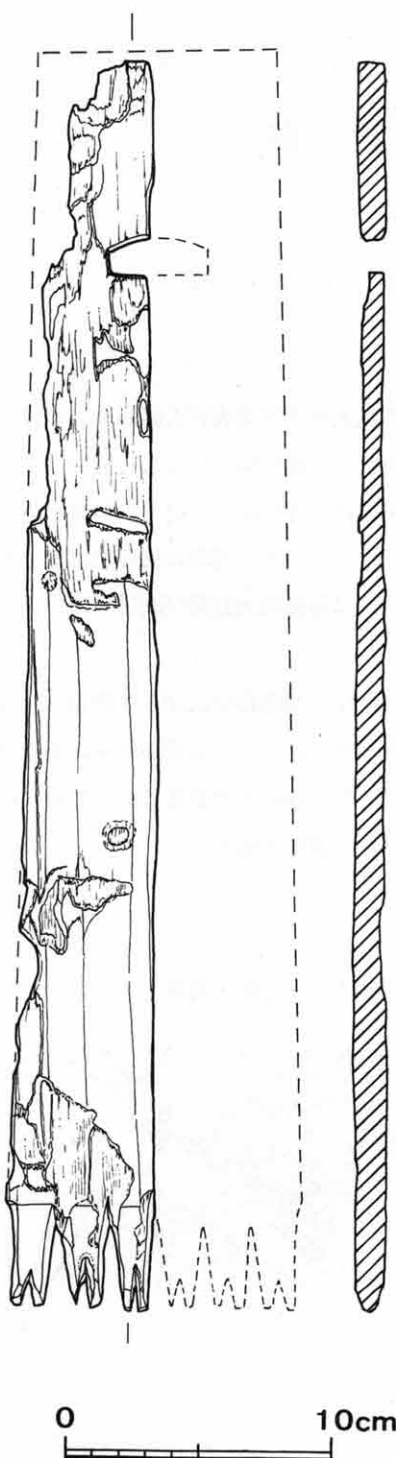
鎌倉時代以降 柱穴・石列等

以上の各遺構を検出したが、今後、掘立柱建物跡は整理作業の進展によりさらに増えると考えられる。

奈良～平安時代に属する掘立柱建物跡には、倉庫とみられる2間×2間の総柱建物跡1棟のほか、2間×3間、2間×4間等の掘立柱建物跡を検出した。柱穴掘形は方形と円形の2種があり、概ね、方形掘形をもつ柱穴が古い時期に属する。また、



第1図 調査地位置図 (1/25,000)



第2図 木製琴実測図

柱穴の内部には柱根部分が朽ちることなく遺存するものも多数みられた。柱根は最大のもので直径約25cm・長さ約50cmを測った。

**出土遺物** 縄文時代早期～鎌倉時代にかけての遺物が出土した。縄文時代としては早期の押型文・後期の沈線文系の土器が出土した。弥生時代後期の畿内第Ⅴ様式土器・木製品・ガラス製小玉。古墳時代後期の須恵器・土師器。奈良時代以降の須恵器・土師器・緑釉・青磁・白磁・墨書土器・石製品(石帯)等の遺物が多量に出土している。

**まとめ** 正垣遺跡は、縄文時代早期段階からほぼ鎌倉時代にかけての遺跡であることが判明した。なかでも、丹後地域での調査例が少なく不明な点が多かった奈良～平安時代を考える上で、今回検出した建物群・出土遺物の資料は重要な位置を占めるものとみられる。また、当時の正垣遺跡は、出土遺構・遺物の内容から役所的な性格の強い遺跡であることが判明した。

今後、整理作業を進めることにより、正垣遺跡の性格が明らかになるものと考える。

第2図に示した木製琴は、弥生時代後期の河川跡から出土したものである。板作りの琴であり、全様は不明であるが琴尾に3本の突起が付き、先端にはすべてするどい切込みをもつ。琴頭に近い中央部に絃孔をもつ。残存長46.4cm・幅5.6cm・厚み1.0cmを測る。もとは5絃ないし6絃琴であったとみられる。弥生時代後期に属する。

(竹原 一彦)

## 26. 桃 山 古 墳 群

**所在地** 中郡峰山町内記小字桃山  
**調査期間** 昭和60年11月27日～昭和61年3月24日  
**調査面積** 約830m<sup>2</sup>

はじめに 今回の発掘調査は、丹後国営農地東部地区開発事業のうち、内記団地の造成に伴い実施したものである。

桃山古墳群は、竹野川右岸に存在する山塊から樹枝状に派生した丘陵の先端部に位置している。比高は、約30mである。竹野川流域の平地からは、やや奥まった地点にあり、古墳群から望むことのできる平地はほとんどない。付近には、スクモ塚古墳群や名木山古墳群といった古墳群が存在している。

桃山古墳群の存在する丘陵は、東西方向にのびる細長い半独立状の丘陵で、西側に明確な墳丘をもつ2基の古墳が確認されていた。西端に位置する1号墳には既掘による窪地があり、遺物の出土も伝えられていた。

**調査概要** 今回の発掘調査では、2基の古墳の埋葬施設を検出するとともに、墳丘の築造方法などを確認する作業を行った。また、丘陵の東側を占める平坦地にも、試掘トレンチを設けた。

調査の結果、1号墳で2基、2号墳で1基の埋葬主体部を検出した。試掘トレンチでは遺構・遺物は認められなかった。

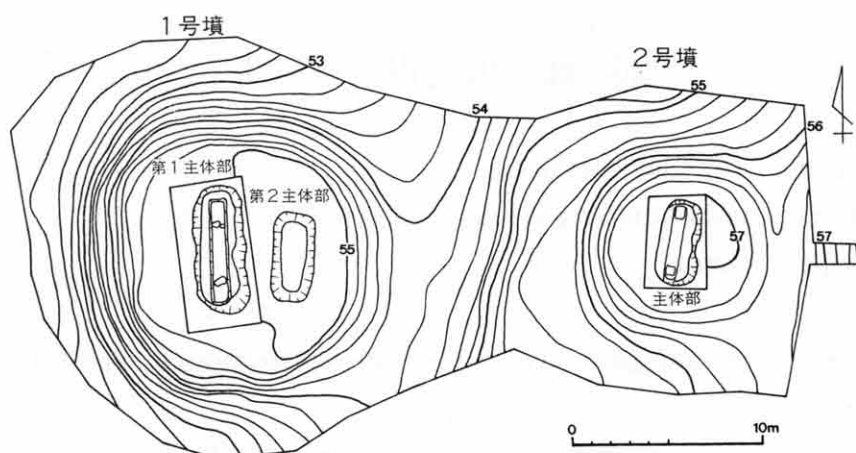
(1) 桃山1号墳 直径19m・高さ2.5mを測る円墳で、墳頂部には平坦面をもつ。埋葬主体部は、2か所を検出した。

**第1主体部** 墳丘上面から約1.2m下の地山面で検出した。墓坑の規模は、6.5m×4.5mで、5.3m×0.9mの木棺部を確認した。両側には扁平な石が置かれており、棺台として使用されていた可能性が強い。主体部内からは、須恵器(杯蓋・杯身・高



第1図 調査地位位置図 (1/50,000)

- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 桃山古墳群  | 2. スクモ塚古墳群 |
| 3. 名木山古墳群 | 4. 湧田山古墳群  |
| 5. 杉谷山古墳群 | 6. 扇谷遺跡    |
| 7. 七尾遺跡   | 8. カジャ古墳   |



第2図 掘削終了後墳丘測量図

杯・甕）・鉄製品(直刀・轡・鉄鏃・刀子)・玉類(勾玉・管玉・ガラス小玉)が出土した。なお、第1主体部の直上には既掘による窪地があり、多くの須恵器が散乱していた。主体部内が攪乱された様子が認められなかったことから、第1主体部直上での葬送儀礼に用いられた須恵器が掻き出されたものと判断した。第1主体部では、須恵器の年代から、6世紀前半のある時期に埋葬が行われたものと思われる。

**第2主体部** 墳丘上面で検出した。墓坑の規模は、4.5m×2.2mである。木棺直葬墓と考えられるが、木棺の痕跡を確認することはできなかった。主体部内からは、須恵器(杯蓋・杯身)・鉄製品(短刀・鉄鏃)が出土した。須恵器の年代から、6世紀後半のある時期に埋葬が行われたものと思われる。

(2) **桃山2号墳** 直径11m・高さ1.5mを測る円墳で、墳頂部には、平坦面をもつ。埋葬主体部は、墳丘上面から約1m下の地山面で、1か所を検出した。墓坑の規模は、4.4m×2.3mで、3.3m×0.6mの木棺部を確認した。両端には、粘土塊が遺存しており、木棺の木口押さえとして用いられていたものと考えられる。主体部内からは、鉄製品(鉄鏃・刀子)が出土した。埋葬の時期は明確ではないが、おそらく6世紀後半期になるものと考えられる。

**まとめ** 桃山古墳群では、2基の古墳を調査し、3基の埋葬主体部を確認することができた。いずれも木棺直葬墓である。

1号墳の第1主体部からは多くの遺物が出土した。これらのうち、轡は丹後地域では出土例の少ないもので、木棺直葬墳からは初めて出土したものである。

桃山古墳群の築造年代については、おおむね6世紀の段階であることが確認できた。

(三好 博喜)

## 27. 栗ヶ丘古墳群

所在地 綾部市小呂町田坂  
 調査期間 昭和60年11月29日～昭和61年3月31日  
 調査面積 古墳2基，試掘調査約600m<sup>2</sup>

はじめに 当古墳群は、綾部市の中心部から北へ約3kmほど離れた丘陵地に位置している。総数は12基で、比較的小規模な墳丘を有している。今般、この地に綾部工業団地が造成されることとなり、発掘調査を実施することになった。隣接した丘陵には田坂野古墳群があり、昭和40年の調査により6世紀前半から7世紀中葉に築造された木棺直葬墳を5基確認している。当古墳群もまた同様であると予想しながら調査に着手した。

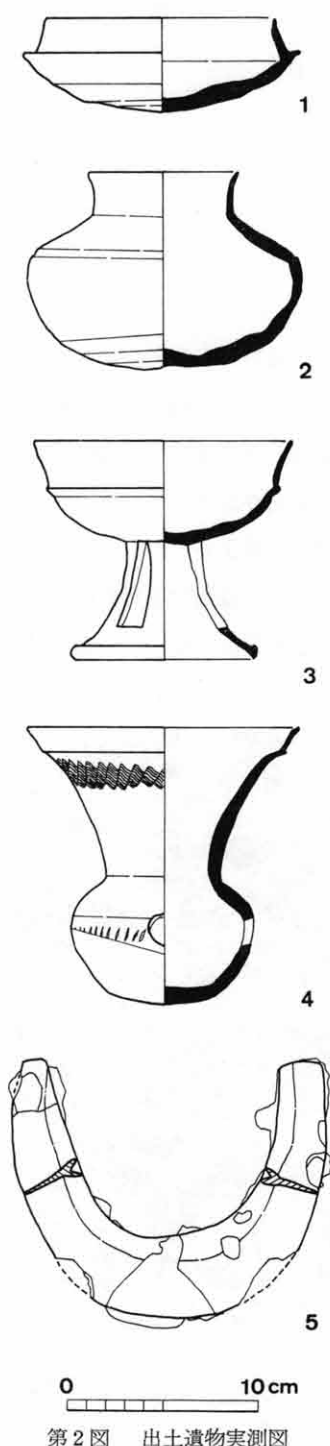
調査概要 調査はまず草刈りをした後、地形測量を行った。この段階で3号墳の隣りに古墳のあることが判明し、13号墳と仮称することにした。本調査は3号墳と5号墳について実施し、2・4・6・13号墳に関して

は試掘調査を実施した。このほか丘陵上に2m×10mのトレンチを10本設定し、遺構の有無を調べた。なお、今回の略報は紙数の都合上、主に3号墳について説明する。

3号墳 本墳は直径14m・高さ1.2mの円墳である。南側は谷にせり出した形で造られており、少量の盛土で大きく見せる地業を行っている。南以外の三方には幅2～3m・深さ0.3～0.5mの周濠があるが、南は幅1mの平坦面を造り、墳丘と自然地形である斜面とを区別している。木棺を設置するための土坑（以下主体部と呼ぶ）は、墳丘の中央に2か所重複して検出された。第1主体部（新しい方）は、幅1.7m・長さ4.5m・深



第1図 調査地位置図 (1/50,000)



第2図 出土遺物実測図

さ0.5mの長方形土坑である。棺底には鉄製鋤鍬先1点(第2図5)と鉄鍬3点が置かれてあった。主体部の横には須恵器壺や土師器高杯などを埋納した土坑があった。調査を進めた結果、この土坑は第2主体部(古い方)を蔽った土層の上から掘り込まれたものであることが判明した。層位的には第2主体部→土坑→第1主体部と変遷している。第2主体部の規模は幅2m・長さ5m・深さ0.3mの長方形土坑である。中央部に鉄鍬数点が置かれており、西部には鉄斧1点と直上に鉄鍬2点があった。東端には須恵器杯身5点が置かれてあった。

これらの遺物の年代は、おおむね6世紀前葉～中葉と思われる。

墳丘の断面を観察した結果、造成方法は黄褐色土及び黒色土の旧地表面の上に、黄色と黒色の土層を交互に盛り上げていた。0.5mほど盛り上げた段階で主体部を掘り、その後さらに盛土し、ある段階で土器を置き祭祀を執行したらしい。その後0.5mほどさらに盛土し、作業を完了している。

5号墳も同様の地業を行っているが、主体部は1か所のみであった。但し、墳丘の西側には幅狭い平坦地があり、ここに須恵器壺・横瓶・杯、鉄鍬などが土坑の中に埋置されていた。

おわりに 今回、調査した6基の古墳の主体部はすべて木棺直葬であった。3号墳以外はすべて1主体部のみであるが、試掘の場合が多く断定できない。この点については次年度の調査によって明らかになるであろう。

なお、トレンチ調査の結果によれば、ほとんど遺構は確認されなかったので、今回の対象地は古墳時代に墓地として利用されたが、後世居住しなかったことが明確となった。但し、2・5・6・13号墳の墳丘の表面からは平安時代の土師器杯が発見されたので、この時代の人々が古墳を意識したことが確認できた。今後この点にも留意する必要がある。(伊野 近富)

## 28. 畑 山 2 号 墳

所在地 綴喜郡田辺町大字薪小字畑山  
 調査期間 昭和60年10月7日～昭和61年3月25日  
 調査面積 約300m<sup>2</sup>

はじめに 畑山2号墳は、昭和60年度の京奈バイパス道路敷設工事に伴う発掘調査によって、その存在が明らかとなった。玄室に礫床をもち、珍しい鉄製工具(鉄鉗)などが出土した郷土塚4号墳(第1図1)や、精妙なつくりの銅製椀などが出土した畑山3号墳(同図4)に続き、当調査研究センターが調査した。当古墳は、標高約65mの小高い丘陵東側縁辺部に立地し、付近一帯には竹林が広がる。畑山古墳群の中の1基で、横穴式石室を内部主体に持つ古墳時代後期(6世紀後半)の古墳である。

周辺の丘陵  
 縁辺部にはこうした小規模な古墳群が多くみられる。以下、主体部を中心にこの古墳の概要を説明する。

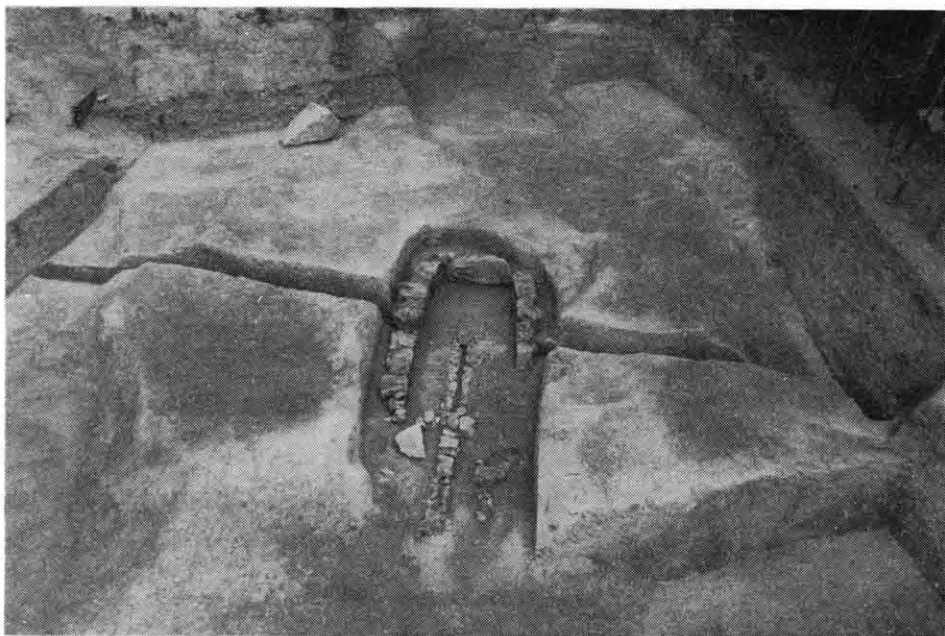
## 調査概要

まず墳形については、竹林により旧地形がかなり改変されているために断定しえない。このことに加えて、古墳の盛



第1図 畑山2号墳(3)周辺遺跡分布図(1/25,000)

- |           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 郷土塚4号墳 | 2. 郷土塚古墳群 | 3. 畑山2号墳 |
| 4. 畑山3号墳  | 5. 西山古墳群  | 6. 堀切横穴群 |



第2図 畑山2号墳全景(南から)

土(封土)もほとんど完全に削り取られており、当時の堆積状況を窺うことはできない。

内部主体である横穴式石室は、やや西寄りの南向きに開口する。その規模は、全長約5.6m、幅はやや胴張りで奥壁近くが約1.1m、中間部が約1.3mを測る。石室平面の形態は、羨道と玄室の境に区別のない無袖式である。

石室は、すでに最下段まで側石が抜き取られている部分が多い。側石は石室中間部まではほぼ二段分残る。石材は平均して人頭大くらいのものが中心であるが、奥壁には横向きに大型の石材が使われていた。側石でみると、やや上段の石材が石室内にせり出している。

石室中央部には排水溝が設けられていた。全長約4m・幅20～50cm・深さ約10cmを測る。奥壁までは達しなくて、中間部で終結している。構造は、角礫を使用して両側をハの字形に組み、扁平な蓋石が丁寧にかぶせられていた。

掘形のラインも比較的明確であった。掘形石材との間には、赤褐色粘質土の堆積がみられた。そして、奥壁から先に構築されていたことも窺えた。

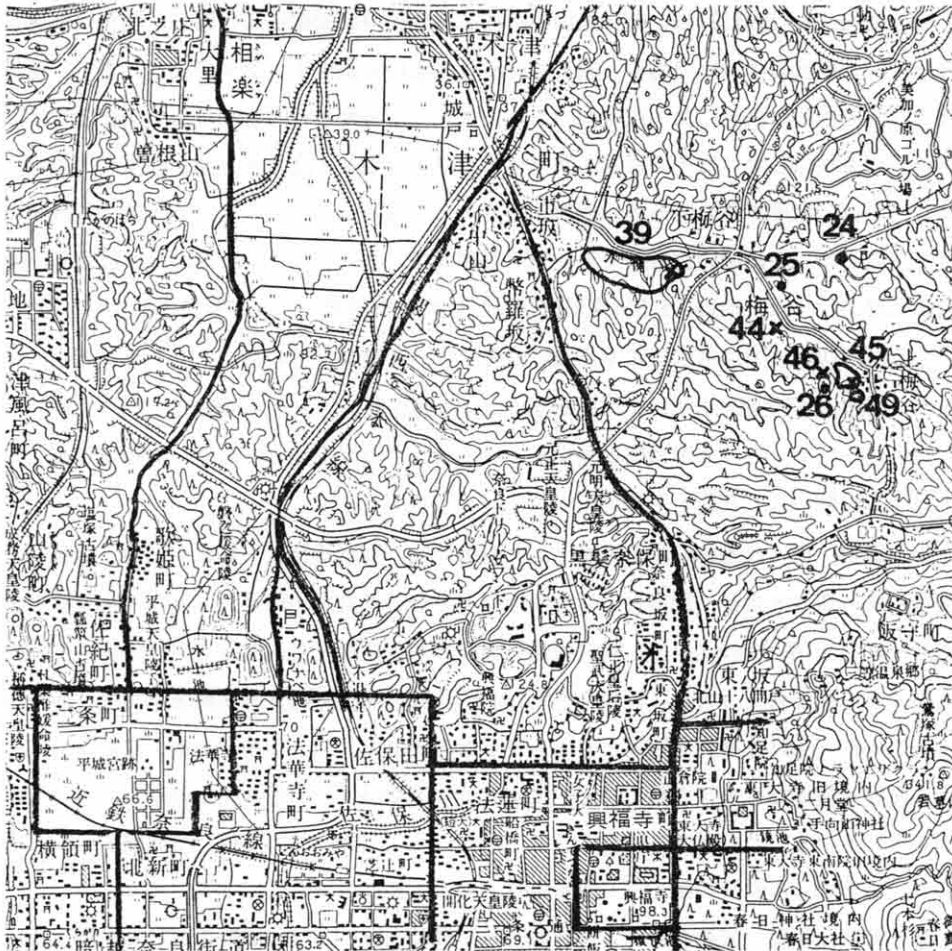
出土遺物には、須恵器杯蓋・杯身・蓋・高杯・横瓶・甕、土師器壺、耳輪(銀環)、凝灰岩片(石棺材)などがある。遺物については現在も整理中である。全体の詳しい観察点とあわせて後日、報告したい。

(黒坪 一樹)

## 29. 木津地区所在遺跡

所在地 相楽郡木津町大字梅谷北中ノ谷・中山・奥ヶ平・中ノ平・中ノ島・菩提  
調査期間 昭和60年5月8日～昭和61年3月17日  
調査面積 1,151m<sup>2</sup>

はじめに この調査は、住宅・都市整備公団の依頼による木津東部地区(木津町大字木津・市坂・梅谷・鹿背山)内に分布する遺跡の発掘調査である。当地域での調査は昭和59年度から実施され、本年度は、梅谷地区を中心に合計7か所の遺跡の調査を行った。



第1図 昭和60年度調査地位位置図(1/50,000) 数字は地点番号

**調査概要** 今年度行った調査は、3か所の古墳の調査と4か所の遺物散布地の試掘調査である。以下、各遺跡の概要を報告する。

第24地点(北中ノ谷古墳)は、径約10m・高さ1.5mの古墳と考えられ、幅1mのトレンチを十字に設定して試掘を行った後、面的な発掘を実施した。調査の結果、粘土層・砂層からなる自然地形であることが判明した。第25地点(中山古墳)・第26地点(中ノ平古墳)についても同様の方法で調査を行ったが、いずれも自然の隆起であるという結果を得た。

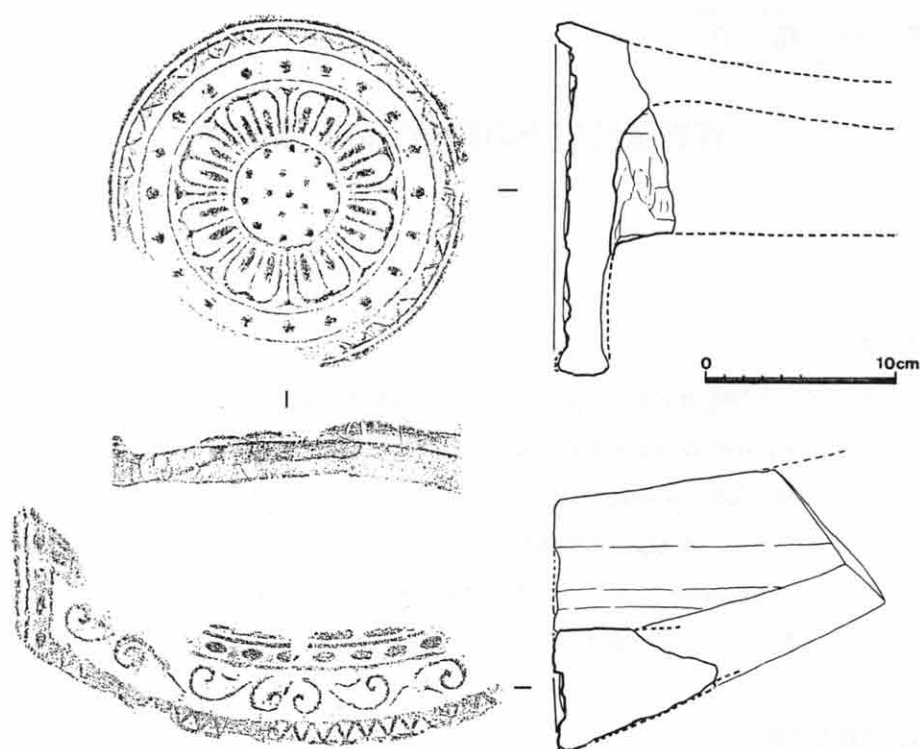
また、第44地点(奥ヶ平遺跡)・第46地点(中ノ平遺跡)の2地点では遺物の散布が知られていたが、今回の調査では、周辺での顕著な遺構は希薄であろうと考えられる結果を得た。

第39地点(菩提遺跡)は、広大な範囲の遺跡であり、今年度の調査はきわめて部分的なものであったため遺跡の性格については明らかでないが、今回の調査では18世紀頃の遺構を部分的に検出した。

第45地点(中ノ島遺跡)は、梅谷瓦窯の所在する丘陵の北面裾部に位置し、現在は水田となっている棚状の平坦地である。調査では2枚の水田に試掘トレンチを設け、まず、堆積層の状況を中心に調査した。丘陵裾のトレンチでは、現地表下0.4~0.7mで灰原と考えられる地層を検出した。黒色の灰原上面では軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が数多く出土し、北に向かって次第に深く落ち込む地形であることを確認した。トレンチ北では、深さ1.8mまで調査した。1段低い西寄りのトレンチでは3m×3mのグリッドを3か所設定し、地層の観察を行った。地表下1.0mまでは江戸時代の新田開発によって形成された粘土層で、以下3.0~4.0mまでは洪水による多量の砂礫によって覆われていた。トレンチの拡張によって、南側で南北幅約4.0mの大阪層群(地山)を削り出したテラスを検出した。北側は深く落ち込み、テラスの北岸は礫と粘土によって東西に護岸を施しており、周辺では灰原の土とともに軒平瓦・丸瓦・平瓦が出土した。

**出土遺物** 中ノ島遺跡の調査で出土した遺物には、須恵器杯A・杯B・同蓋・壺N、土師器杯A・皿A・壺B・甕などの少量の土器とともに軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦などがある。軒丸瓦(第2図・上)は、鋸歯縁珠文帯複弁八葉蓮華文で、興福寺出土の軒丸瓦6301A型式と同範と考えられる。軒平瓦(第2図・下)は、珠文鋸歯文帯均整唐草文で、興福寺出土の軒平瓦6071A型式と同範と考えられるものである。これらの瓦は南の丘陵上に所在する梅谷瓦窯跡でも表採されている。このほかに6671Abと考えられる軒平瓦の小片も出土している。また、平瓦では、粘土板の“合せ目”や布袋の“とじ目”を観察することができ、目を通した限りではすべて桶巻作りと考えることができる。

**まとめ** 今年度の調査で特筆すべき成果は、第45地点(中ノ島遺跡)における試掘調査での成果である。梅谷窯については遺跡分布調査によって布目瓦が多数出土することが早く



第2図 中ノ島遺跡出土軒丸・軒平瓦拓影・実測図

から知られており、昭和56年度の分布調査では軒平瓦(6671A)も採取されている。そしてさらに今回の調査によって灰原やテラス状遺構が確認されたことにより、梅谷瓦窯(第49地点)及び中ノ島遺跡は同一時代の平面的な広がりを持って形成された遺跡であることが明らかになった。今回出土した軒丸瓦(6301A)と軒平瓦(6671A)は、奈良興福寺の発掘調査により創建時(寺伝によると和銅3年=710年創建という)に使用されたセット関係をなすことが明らかになっているので、当遺跡が成立したのは平城京に遷都して間もない時期であったことが理解できる。軒丸瓦・軒平瓦の文様構成にみられる鋸歯文や平瓦が桶巻作りであることは、まさに白鳳期から奈良時代への変わり目を示す標式的資料であるといえる。梅谷瓦窯と興福寺は直線距離にしてわずか3.5kmで、途中にある丘陵を迂回しても5km程度の距離にあたる。生産地と消費地をつなぐ交通の観点で考えれば、平城北部にある奈良山瓦窯群同様きわめて理想的な位置に経営された瓦窯ということが分かる。

(戸原 和人)

## 資 料 紹 介

### 青野遺跡出土の渦巻文のある土器

田 代 弘

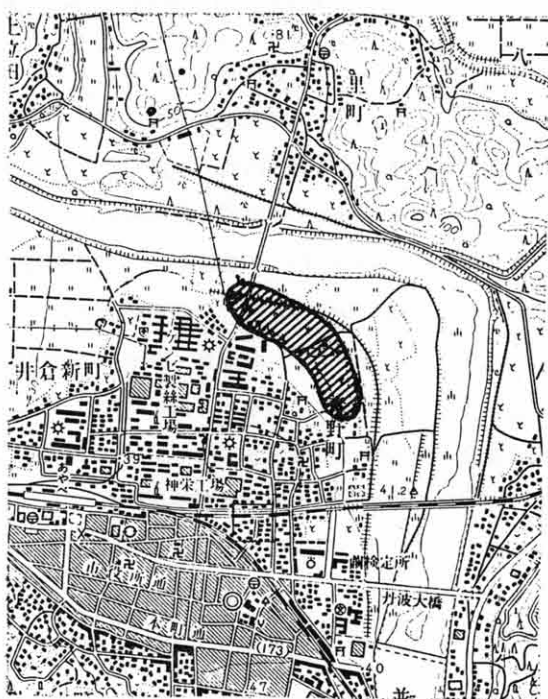
#### 1. はじめに

1981年に当調査研究センターが実施した青野遺跡第6次調査出土<sup>(注1)</sup>土遺物の再整理をおこなっていたところ、SB8117出土土器群のなかから新たに渦巻文のある土器をみつけることができた。この種の文様は、現状では、中丹地方はもとより京都府下においても類例に乏しいものである。また、施文手法も原体押圧による可能性があるなど、細片ながら遺跡の性格・地域間交流の様相をとらえる上で貴重な参考資料になるものと思われる。そこで、小稿ではこの遺物について取り上げ、紹介することにしたい。

#### 2. 遺跡と遺物

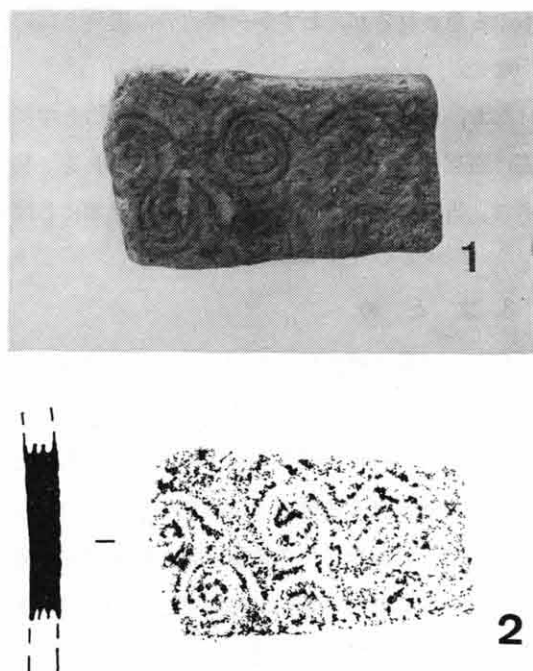
青野遺跡は、綾部市青野町にある<sup>(注2)</sup>集落遺跡である。遺跡は、丹波高原に源を発し北流してきた由良川が、綾部市街地の北部で大きく西方に流跡を変換する地点の左岸に位置している。自然堤防を中心に東西200m・南北500mの広がりをもつものと推定されている(第1図)。

当遺跡については、綾部市教育委員会、当調査研究センターにより、9次にわたって発掘調査が実施されている。その結果、弥生時代から中世にかけての各時期、各種の遺構・遺物が多量にみつき、由良川中流域における拠点集落としての遺跡<sup>(注3)</sup>の姿が次第に明らかになってきた。



第1図 青野遺跡位置図(斜線部分) 1/25,000

さて、文様の残っていた土器は、住居跡と考えられる遺構 (SB8117) から多数の土器とともに出土している。この土器群は、一括性が強く庄内式の新しい段階に並行するものと<sup>(注4)</sup>考えられている。土器は、細片化が進み現在では2cm×3cmほどの破片になっている(第2図)。器表面も流水等による風化作用を受けて荒れている。器種は、器壁が約3mmと薄く、胎土も良好である点から小形の壺形土器と考えることができる。また、部位については肩部、それともかなり張りを持つ器体の肩部上半にあたると思われる。



第2図 遺物写真(1)・実測図(2) 実大

文様の形状は渦巻きである。時計回りに巻き込んで反転するもので、渦の中心はとぎれずに連続する特徴をもつ。文様は幅が1mmに満たない沈線で構成され、中心径約1cm・幅1.3cmを測る渦が一つの単位になっている。

施文は、単位文様を連続して、あるいは不規則に行われている。密に施されているため、一部では連続渦文状の視覚的効果を生んでいる。この連続渦文は、銅鐸における渦巻文の分類によると「Z型第Ⅱ種」に属している。<sup>(注5)</sup>施文方向、順序は明らかでない。<sup>(注6)</sup>

隣接する文様どうしは、互いに独立するように注意されているが、部分的に重なりをもっている。この重なり部分を観察すると、後に施されたものが先の文様を面的に切り込んでいることがわかる。もし、文様が逐一沈線によって描かれているならば、線と線の切り合いが認められるだけのはずであるから、単位文様は、面的な広がりを持つ原体上に刻まれ、それを押圧することによって生じたものと考えられる。では、この原体はどのようなものであろうか。

渦文は、断面がやや丸みを帯びた細い沈線として器表にあらわれている。また、施文面は水平ではなく、ややくぼんでいる。このことから、原体の文様が刻まれている部分は、凸状を呈し、そこに極めて細い浮線が陽刻されていたものと推定できる。いわゆる「スタンプ」状の原体が考えられる。原体の素材は、陽刻しやすい木材やある種の石材を用いた

ものと思われるが、わずか一単位分の陽刻とはいえ、かなりの熟練が必要とされたにちがいない。

なお、土器の色調は淡橙色を呈する。胎土中には円礫化したチャート粒のほか、各種岩石、石英・長石・雲母などの鉱物がみられる。粘土素地は密であり良好だが、やや砂質である。当遺跡において供献ないし貯蔵形態にしばしばみられる胎土である。

### 3. ま と め

以上、遺物の観察結果を記し、あわせて施文方法と原体について憶測を述べた。最後に気がついた点を記してまとめにかえることにしたい。

(1)当例は、残存状況から原体押圧によるものと考えられることができる。いわゆる「スタン  
プ文」と呼ばれる特徴ある文様群のひとつであり、スタンプ文の分類でみるとB類に含ま  
れている。B類は、摂津篠原遺跡や播磨西田原遺跡など瀬戸内東部地域に散発的に分布す  
ることが知られているが、類例に乏しいものである。<sup>(注7)</sup> 今回の発見は、この文様の分布地図  
を拡大するものであると言えよう。<sup>(注8)</sup>

(2)遺跡の地域性・地域間交流の具体的な様子を知るてだてとして、土器の移動、文様・  
器種の構成等を追求する方法がある。当資料は、今後、このような方法を用いて青野遺跡  
や関連する弥生時代の遺跡をとらえてゆく際に貴重な参考資料になるものと思われる。

なお、小稿作成にあたっては、当調査研究センター調査員小山雅人・森下 衛に教示を得た。文  
末ながら記して謝意を表する。

(田代 弘=当センター調査課調査員)

注1 増田孝彦・小山雅人「青野遺跡第6・7次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報 第6冊』  
財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1983

注2 『青野遺跡A地点発掘調査報告書(綾部市文化財調査報告 第2集)』 青野遺跡調査報告  
書刊行会 1976

注3 第1～5次調査を綾部市教育委員会、第6～9次調査を当調査研究センターが実施した。

注4 青野西Ⅱ式新相にあたる。

小山雅人「青野西遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第4冊 財団法人京都府埋蔵文化財調  
査研究センター) 1985

注5 佐原 真・町田 章「和歌山市有本出土銅鐸」(『和歌山県文化財学術調査報告書』第3分  
冊) 1968

注6 文様は残存状況が良くないので、すべてが同じ原体によるものであると断定はできない。  
しかし、それぞれがほぼ同じ形態であるので、原体はひとつであると考えられる。

注7 名越 勉・甲斐忠彦「スタンプ施文土器の新例」(『考古学雑誌』第58巻4号 日本考古学  
協会) 1973.3

注8 注7と同じ

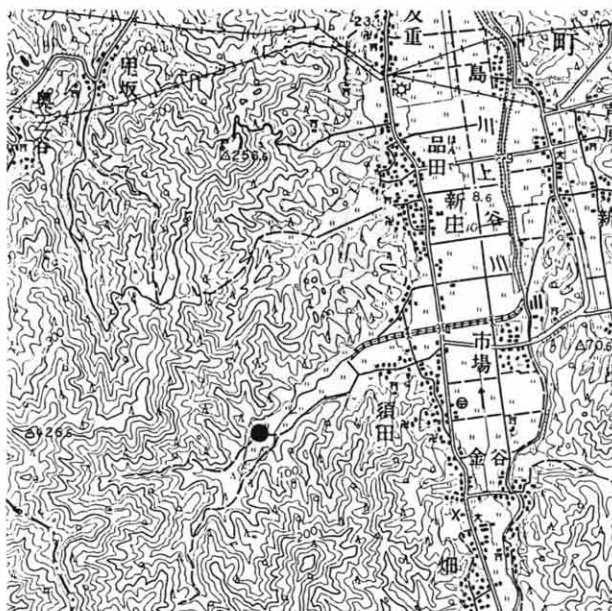
## 府下遺跡紹介

## 32. 湯舟坂2号墳

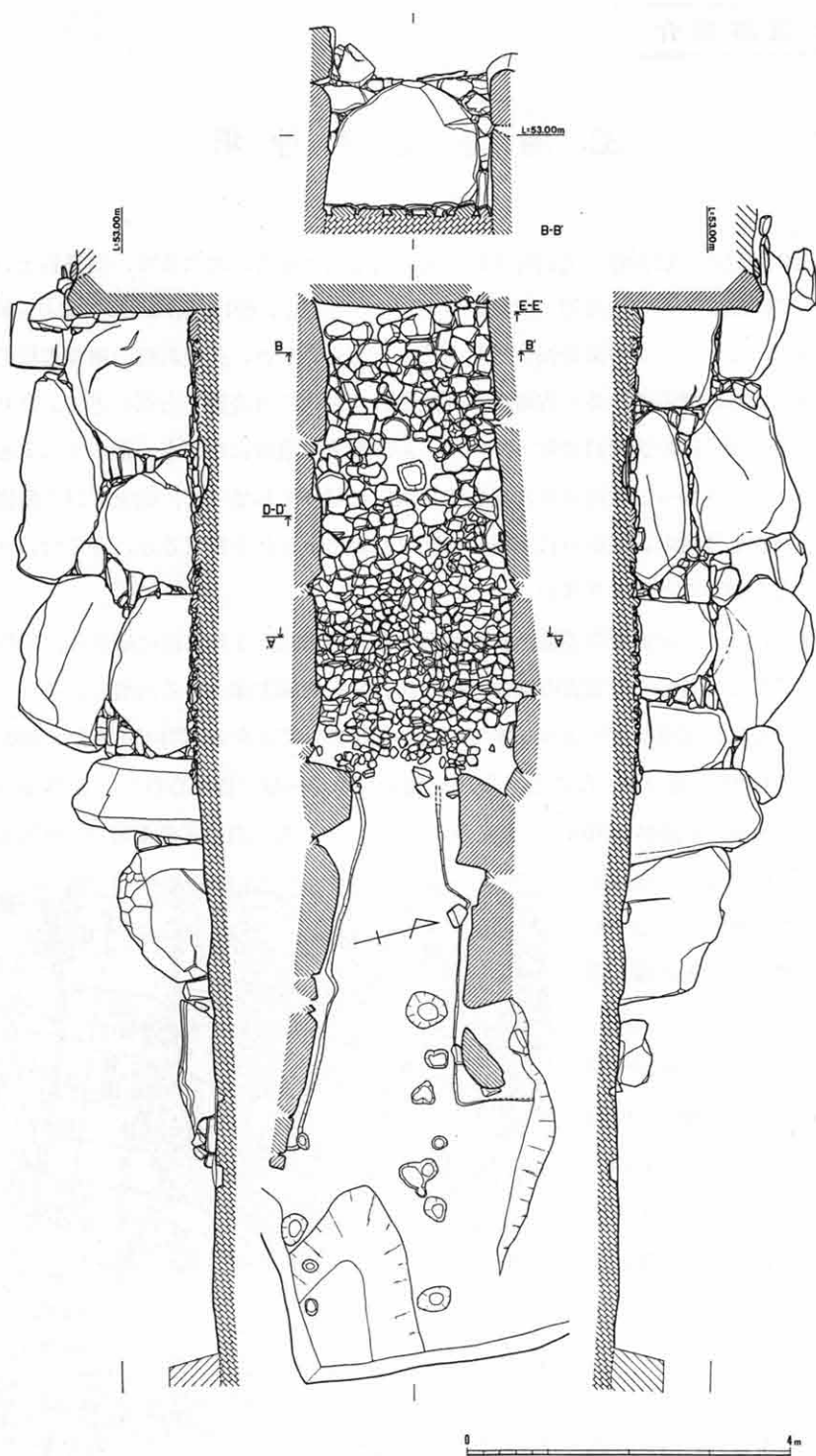
湯舟坂2号墳は、京都府久美浜町須田の奥にある山の裾野のあたりで、伯耆谷といわれるところに位置する。この周辺には数多くの古墳が存在し、約100基に及んでおり、須田古墳群と呼ばれている。この湯舟坂2号墳もその一部といわれ、久美浜町の後期古墳を考える上で重要なものである。この古墳のある地域は、古代の丹後国でも西の方にあたり、但馬から丹後に来る際の玄関口になっている。湯舟坂2号墳のほかにも、かつては1号墳もあったが、明治になって採掘され、現在では水田になってしまっていて、地上ではその痕跡はわからない。1号墳の石室からは土器や勾玉などが出土したと伝えるが、今ではほとんど詳しいことを知ることができない。

発掘調査は、久美浜町教育委員会が主体となり、昭和56年9月21日に始まり、同年11月20日に終了している。この調査の結果、横穴式石室を内部主体とする円墳であることがわかった。墳丘は、開墾などによってすでに削平されていて高さは不明であるが、幅0.8m・深さ0.3mの周溝が見つかったことから、直径約18mの円墳と推定された。主体部の横穴式石室の規模は、全長が10.6mで、玄室の長さが5.7mもある両袖式のもので、東南東に開口する。玄室部は完全な長方形ではなく、奥壁の方がやや狭くなっていた。羨道部も開口部の方が広がっている。また、玄室内には直径10～30cm程度の自然石を敷く、いわゆる敷石を持つものである。玄室の各壁には長軸が1～2mの花こう岩の巨石を用いており、下から2段が現存しているが、側壁部は、本来、3段積みであつたらしい。

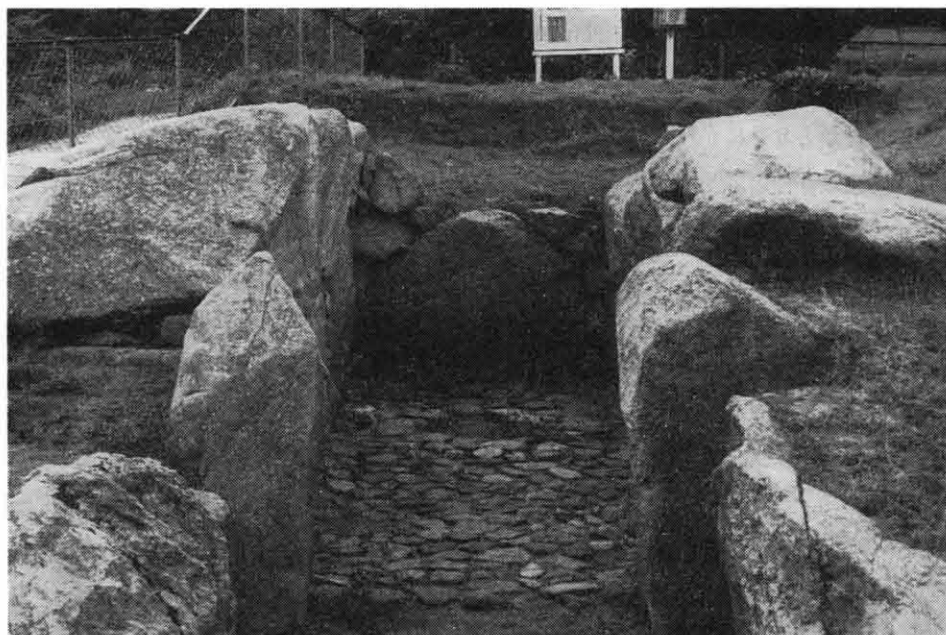
この玄室からは、多量の遺物が出土している。玄室の奥



第1図 遺跡所在地 (1/50,000)



第2図 湯舟坂2号墳石室実測図（『湯舟坂2号墳』より転載）



第3図 湯舟坂2号墳石室

壁よりのところから須恵器・環頭大刀・銅腕などが出土した。須恵器は、総数200点を越えており、時期も大きく6世紀後半と7世紀前半のものの2期に分かれる。このことから、湯舟坂2号墳は、6世紀後半頃に築造されて、その後7世紀前半に至るまで追葬が行われた古墳であると推定されている。

出土遺物のなかで最も著名なものは、環頭大刀である。なかでも柄頭は、大小4匹の竜がそれぞれ向かい合って玉をくわえた姿を表現しており、最大径10.8cmもある大型品である。その他、圭頭大刀・直刀・刀子・鉄鏃といった武器類や、轡・鐙・雲珠などの馬具、金環・管玉・土玉を始めとする装身具類が多量に出土しており、昭和58年6月には一括して重要文化財の指定を受けている。

これらの遺物は、昭和58年度に京都府立丹後郷土資料館・同山城郷土資料館・同総合資料館で展示され、広く一般にも公開された。また、現地も横穴式石室周辺が公園化され、いつ行っても見学できるようになっている。

(土橋 誠)

#### <参考文献>

- 『湯舟坂2号墳一発掘調査の記録一』 京都府久美浜町文化財調査報告第6集 久美浜町教育委員会 1982  
 『湯舟坂2号墳』 京都府久美浜町文化財調査報告第7集 久美浜町教育委員会 1983  
 『特別展図録 環頭大刀の発見一丹後・湯舟坂2号墳一』 京都府立丹後郷土資料館・京都府立山城郷土資料館・京都府立総合資料館 1983

## 長岡京跡調査だより

この3月から5月にかけての3か月間に行われた長岡京跡の調査は、宮域7件・右京城12件・左京城9件の計28件ありました。新年度も、年度当初から数多くの調査が行われています。これらの調査では、長岡京の条坊側溝や掘立柱建物跡、弥生時代の住居跡等を検出するなど多大な成果を上げています。それでは以下に、3月26日・4月23日・5月25日の長岡京連絡協議会で報告された調査のうち、主だったものについて簡単に報告いたします。

### 宮内第170次 (1)

向日市教育委員会

調査地は、長岡宮の内裏跡東北部に当る。内裏内郭築地回廊と後宮の殿舎群の一部と思われる掘立柱建物跡を検出した。築地回廊は、後世の削平のため柱の跡は確認できなかったが、西側の雨落ち溝を検出した。掘立柱建物跡は、東西4間以上の建物で、柱を立てた後一帯に置土して整地を行っていた。そのため、整地土層の上面では柱の抜き取り穴のみが検出された。

また下層で、弥生時代の竪穴式住居跡も検出された。

### 宮内第172次 (3)

(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

調査地は、長岡宮跡の西辺官衙域に当るが、小畑川の氾濫等によるとと思われる砂礫層が床土直下から堆積しており、長岡京に係した遺構は検出されなかった。

### 宮内第173次 (4)

向日市教育委員会

長岡京期の溝のほか、中世の土坑やピット等を検出した。中世の土坑からは、瓦器碗等のほかに製鉄炉の壁体が出土した。

### 宮内第174次 (5)

向日市教育委員会

長岡京期の柱穴を検出した。

### 宮内第176次 (7)

向日市教育委員会

長岡宮跡の北辺官衙域に当る。現在調査中で、長岡京期の土器を含む包含層が厚く堆積している。

### 右京第217次 (8)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

右京七条二坊五町・八条二坊八町及び七条大路の推定地に当る。長岡京期の長大な東西棟の掘立柱建物跡が検出された。この建物は、南側に廂があり、桁行10間・梁行5間の規模を測る。身舎は

梁行が4間を数え、中央で間仕切りをして東西に5間ずつに分割している。建物の柱間距離は、桁行が約2.25m、梁行が身舎部分

調 査 地 一 覧 表

|    | 次 数     | 地 区 名     | 調 査 地          | 調 査 機 関  | 調 査 期 間                 |
|----|---------|-----------|----------------|----------|-------------------------|
| 1  | 宮内第170次 | 7AN4E     | 向日市鶏冠井町御屋敷     | 向日市教委    | 61. 4. 5～ 4. 30         |
| 2  | 宮内第171次 | 7AN19D    | 向日市向日町南山56     | 向日市教委    | 61. 4. 16～ 4. 26        |
| 3  | 宮内第172次 | 7AN20C    | 向日市上植野町上川原5ほか  | (財)京都府埋  | 61. 4. 21～              |
| 4  | 宮内第173次 | 7AN7K     | 向日市寺戸町東野辺16-1  | 向日市教委    | 61. 5. 6～               |
| 5  | 宮内第174次 | 7AN8E     | 向日市森本町天神の森6-5  | 向日市教委    | 61. 5. 7～ 5. 13         |
| 6  | 宮内第175次 | 7AN13G    | 向日市寺戸町西ノ段4-2   | 向日市教委    | 61. 5. 7～ 5. 8          |
| 7  | 宮内第176次 | 7AN11H    | 向日市寺戸町初田14     | 向日市教委    | 61. 5. 21～              |
| 8  | 右京第217次 | 7ANROZ    | 長岡京市調子1丁目25-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 1. 13～ 3. 20        |
| 9  | 右京第219次 | 7ANGNM-2  | 長岡京市滝ノ町2丁目8-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 4. 9～ 4. 18         |
| 10 | 右京第222次 | 7ANMSI-7  | 長岡京市開田4丁目417   | (財)長岡京市埋 | 61. 2. 21～ 3. 3         |
| 11 | 右京第223次 | 7ANITT-12 | 長岡京市今里4丁目30-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 2. 21～ 4. 7         |
| 12 | 右京第224次 | 7ANKYR    | 長岡京市長岡2丁目10-7  | (財)長岡京市埋 | 61. 3. 18～ 4. 3         |
| 13 | 右京第225次 | 7ANKYR-2  | 長岡京市長岡2丁目10-6  | (財)長岡京市埋 | 61. 3. 10～ 4. 3         |
| 14 | 右京第226次 | 7ANQUD-4  | 長岡京市久貝2丁目208   | (財)長岡京市埋 | 61. 3. 25～ 4. 18        |
| 15 | 右京第227次 | 7ANIAE-5  | 長岡京市今里4丁目253-5 | (財)長岡京市埋 | 61. 3. 27～ 5. 13        |
| 16 | 右京第228次 | 7ANJMM    | 長岡京市長法寺南野20-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 4. 1～ 5. 18         |
| 17 | 右京第229次 | 7ANINE-2  | 長岡京市野添1丁目47-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 4. 9～ 5. 8          |
| 18 | 右京第230次 | 7ANGYT    | 長岡京市井ノ内横ヶ端13-1 | (財)長岡京市埋 | 61. 4. 22～              |
| 19 | 右京第231次 | 7ANIST-7  | 長岡京市今里3丁目13-1  | (財)長岡京市埋 | 61. 4. 25～ 5. 9         |
| 20 | 左京第139次 | 7ANVKN    | 京都市南区久世東土川町    | (財)京都市埋  | 60. 10. 1～              |
| 21 | 左京第140次 | 7ANXWD    | 京都市伏見区羽東師菱川町   | (財)京都市埋  | 60. 11. 5～<br>61. 3. 15 |
| 22 | 左京第145次 | 7ANFST-2  | 向日市上植野町芝ヶ本2    | 向日市教委    | 61. 2. 26～ 4. 26        |
| 23 | 左京第146次 | 7ANDII-4  | 向日市森本町戌亥5-3    | 向日市教委    | 61. 3. 1～               |
| 24 | 左京第147次 | 7ANLHK-3  | 長岡京市馬場人塚       | (財)長岡京市埋 | 61. 3. 10～ 4. 8         |
| 25 | 左京第148次 | 7ANFHD-4  | 向日市上植野町菱田4     | 向日市教委    | 61. 3. 14～ 4. 3         |
| 26 | 左京第149次 | 7ANFKW-2  | 向日市上植野町桑原      | 向日市教委    | 61. 4. 1～               |
| 27 | 左京第150次 | 7ANDSB    | 向日市森本町四ノ坪28    | 向日市教委    | 61. 4. 12～ 4. 25        |
| 28 | 左京第151次 | 7ANEKZ-6  | 向日市鶏冠井町清水ほか    | (財)京都府埋  | 61. 4. 30～              |

で約1.8m・廂部分で約2.7mを測る。身舎内には、円形の土壇が多数整然と並び、甕等が据えられていたのではと推定されている。

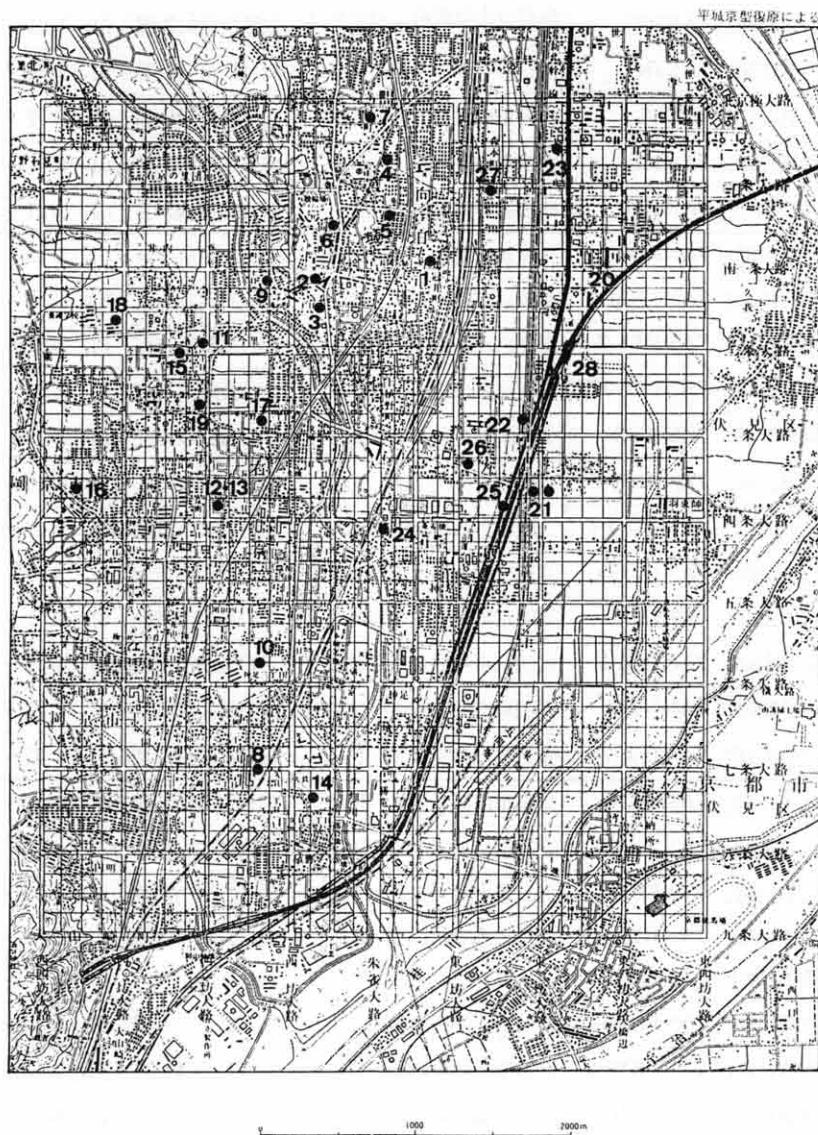
このほか、柵列跡・掘立柱建物跡・溝等が検出されている。

右京第 223 次 (11)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京跡の右京二条三坊四町に当たるとともに、今里遺跡にも含

## 長岡京条坊復原図



数字は本文 ( ) 内と対応

まれる。近隣の調査では、弥生・古墳時代の竪穴式住居跡や平安時代の掘立柱建物跡が検出されている。

この調査では、平安時代の溝・柵列跡、古墳時代の竪穴式住居跡・土坑・土器溜り、弥生時代の竪穴式住居跡等が検出された。弥生時代の住居跡は、1辺5m前後の平面が方形を呈するもので、多量の土器が包含されていた。

右京第224次 (12)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

右京第225次調査地と隣接し、同時に調査を行った。長岡京期の土坑を検出し、軒丸瓦や「中」と記された墨書土器が出土した。ほかに、石鏃等も出土している。

右京第226次 (14)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京期の掘立柱建物跡、平安時代から鎌倉時代の落ち込み・杭列・溝・橋状遺構等が検出された。

右京第227次 (15)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京跡の右京三条三坊八町と二条大路の推定地に当たるとともに今里遺跡に含まれる。

この調査では、弥生・古墳時代の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡等が検出された。弥生時代の竪穴式住居跡は3基確認され、そのうちの1基は、1辺が7m前後を測る大きなものである。この住居跡は、いわゆる中央ピットを持っている。また、平面形が五角形を呈する住居跡も検出されている。これらの住居跡からは、弥生時代末期の土器が出土している。

古墳時代の竪穴式住居跡は、平面が方形を呈し、1辺約4.5mを測り、7世紀中葉の土器が出土している。この住居跡に削られて桁行6間・梁行4間の南北棟の掘立柱建物跡が存在する。この建物と方位を揃えた同時期と思われる掘立柱建物跡が、このほか4棟検出されている。

また、この調査地の南隣で立会調査が行われ、6世紀後半の土器を含んだ東西方向の溝等が見つかっている。

右京第228次 (16)

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

弥生時代中期及び後期の竪穴式住居跡・土坑・大溝、奈良時代の掘立柱建物跡等が検出された。そのうち弥生時代中期の住居跡

- は、直径約8mを測る円形のもので、床面に炭・焼土が堆積しており、火災で焼失したものと思われる。この住居跡は、6本柱の建物で、いわゆる中央ピットを持っている。大溝は、断面逆台形を呈し、幅約1.5～3m、深さ約0.65～1.1mを測る。環濠の一部かと考えられる。
- 遺物は、壺・甕・鉢・高杯・器台等の弥生土器のほか、竪穴式住居跡から土製の紡錘車が出土した。
- 右京第229次 (17) (財)長岡京市埋蔵文化財センター  
長岡京期の石敷遺構や柱穴等を検出した。
- 右京第231次 (19) (財)長岡京市埋蔵文化財センター  
奈良時代末期から平安時代初期にかけての土坑等を検出し、土師器・須恵器・瓦・製塩土器・土錘・弥生土器等が出土した。
- 左京第140次 (21) (財)京都市埋蔵文化財研究所  
平安時代の掘立柱建物跡・井戸・土坑・坪境杭列、長岡京期の石敷遺構・掘立柱建物跡・井戸・土坑、奈良時代の畦畔、古墳時代の流路等が検出された。遺物は、土師器・須恵器・瓦等のほか、木製品(糸巻)・墨書土器・二彩陶器・木簡等が出土している。
- 長岡京期の遺構は、遺構・遺物等の検出状況から、以前から近辺に推定されていた「川原寺」と関連したものと考えられている。
- 左京第145次 (22) 向日市教育委員会  
長岡京期の掘立柱建物跡・南北溝・井戸、古墳時代後期の土坑、古墳時代前期の土坑・溝等が検出された。長岡京期の井戸は、曲物が据えられており、井戸内から製塩土器、土師器碗(完形)が出土した。下層の遺構及び包含層からは石釧や多量の布留式土器が出土している。
- 左京第146次 (23) 向日市教育委員会  
長岡京の一条条間大路と東三坊第1小路の側溝、鎌倉時代の井戸・土坑・溝等が検出された。井戸は、素掘りのもので、土師器皿・瓦器碗等が出土した。土師器の皿は、中央に穿孔が施され、二枚が底部を合わせた状態で出土した。また、土坑内から、羽子板状木製品・漆器碗・曲物底板等が出土している。
- 左京第147次 (24) (財)長岡京市埋蔵文化財センター

- 左京第 148 次 (25) 向日市教育委員会  
長岡京期の掘立柱建物跡・土坑、古墳時代の竪穴式住居跡等が検出された。掘立柱建物跡は、柱間距離が約2.4mを測る南北棟の建物である。竪穴式住居跡は、南北約3.2m・東西約4.8mを測り、平面が方形を呈した住居である。北辺の中央に竈を持ち、須恵器の短脚高杯等が出土した。  
また、弥生時代前期の土器も出土している。
- 左京第 150 次 (27) 向日市教育委員会  
長岡京期の東西溝・土坑等が検出され、調査地の南半には大きな落ち込みがあり、斜面上に縄文土器・弥生土器を含んだ包含層が堆積していた。  
出土遺物には、土師器・須恵器のほか、弥生土器・縄文土器・銅鏃等が出土している。縄文土器は、縄文時代晩期のものである。
- 左京第 151 次 (28) (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター  
長岡京の二条大路北側溝や長岡京期の柵列跡、古墳時代の水田跡と足跡、弥生時代の溝等を検出した。遺物は、土師器・須恵器・緑釉陶器・弥生土器等が出土している。  
(山口 博)

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター組織および職員一覧

(61. 6. 30現在)

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                               |                                                                            |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|--|
| <b>理事長</b><br>福山 敏男 (京都府文化財保護審議会委員)<br>(元京都大学工学部教授)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <b>事務局長</b> 荒木昭太郎                                                                                             | <b>総務課</b> 課長 中西 和之<br>会計主任 安田 正人<br>主事 安達 佳明<br>嘱託 中西 修 富田 敦子<br>// 杉江 昌乃 |  |
| <b>副理事長</b><br>樋口 隆康 (京都府文化財保護審議会委員)<br>(京都大学名誉教授)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <b>調査課</b> 課長 中谷 雅治<br>課長補佐 杉原 和雄<br>主任調査員 山口 博<br>調査員 田中 彰 土橋 誠<br>// 田代 弘<br>嘱託 長閑 和男                       |                                                                            |  |
| <b>理事</b><br>荒木昭太郎 (常務理事・事務局長)<br>岸 俊男 (奈良県立橿原考古学研究所長)<br>(京都大学名誉教授)<br>藤井 学 (京都府立大学文学部教授)<br>川上 貢 (京都府文化財保護審議会委員)<br>(京都大学工学部教授)<br>足利 健亮 (京都大学教養学部助教授)<br>中沢 圭二 (京都府文化財保護審議会委員)<br>(京都大学名誉教授)<br>佐原 真 (奈良国立文化財研究所 埋蔵文化財センター研究指導部長)<br>原口 正三 (大阪府立島上高等学校教諭)<br>藤田 价浩 (財団法人京都古文化保存協会)<br>(前理事長)<br>小島 一夫 (京都府文化芸術室長)<br>武田 浩 (京都府教育庁指導部長)<br>堤 圭三郎 (京都府教育庁指導部)<br>(文化財保護課長) | 企画資料担当<br>調査員 田中 彰 土橋 誠<br>// 田代 弘<br>嘱託 長閑 和男<br>主任調査員 小山 雅人<br>調査員 増田 孝彦 藤原 敏晃<br>// 三好 博喜 肥後 弘幸<br>// 鍋田 勇 |                                                                            |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 第2担当 主任調査員 水谷 寿克<br>調査員 竹原 一彦 引原 茂治<br>// 岡崎 研一 森下 衛<br>// 西岸 秀文                                              |                                                                            |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 第3担当 主任調査員 辻本 和美<br>調査員 伊野 近富 石井 清司<br>// 村尾 政人 石尾 政信<br>// 竹井 治雄 黒坪 一樹<br>// 小池 寛                            |                                                                            |  |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 第4担当 主任調査員 松井 忠春<br>調査員 戸原 和人 岩松 保<br>// 荒川 史                                                                 |                                                                            |  |
| <b>監事</b><br>安井 茂 (京都府出納局長)<br>谷 利夫 (京都府監査委員事務局長)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                               |                                                                            |  |

## センターの動向 (61. 3～5)

## 1. で き こ と

- 3. 1 篠窯跡群(亀岡市)発掘調査終了60. 5. 7～
- 3. 8 芝山遺跡(城陽市)現地説明会開催, 参加者約200名
- 3. 17 木津地区遺跡(相楽郡木津町一住宅・都市整備公団開発予定地)発掘調査終了60. 5. 8～
- 3. 18 昭和61年度職員採用試験実施
- 3. 19 栗ヶ丘古墳群(綾部市)関係者説明会実施
- 3. 20 志高遺跡(舞鶴市)発掘調査終了60. 5. 30～
- 3. 24 丹後国営農場関係遺跡(中郡大宮町, 峰山町)発掘調査終了60. 11. 18～
- 3. 25 正垣遺跡(中郡大宮町)発掘調査終了60. 10. 1～  
京奈バイパス 関係遺跡(綴喜郡田辺町)発掘調査終了60. 6. 10～  
芝山遺跡(城陽市)発掘調査終了60. 5. 21～
- 3. 26 長岡京連絡協議会開催
- 3. 27 栗ヶ丘古墳群(綾部市)発掘調査終了60. 11. 29～
- 3. 28 第15回役員会理事会開催一於パレスサイドホテル一福山敏男理事長, 樋口隆康副理事長, 足利健亮, 川上 貢, 佐原 真, 中沢圭二, 原口正三, 藤井学, 井上裕雄, 武田 浩, 東條 寿各理事, 荒木昭太郎常務理事, 岡田忠司,

安井 茂監事出席

- 3. 30 近畿自動車道舞鶴線関係遺跡(福知山市)発掘調査終了60. 5. 9～
- 4. 1 新規採用職員辞令交付式
- 4. 2～16 新規採用職員研修実施
- 4. 14 正垣遺跡(中郡大宮町)桃山古墳群(中郡峰山町)宮の森古墳群(竹野郡弥栄町)志高遺跡(舞鶴市)発掘調査開始
- 4. 15 京都府新規採用職員職域別実務研修で, 当調査研究センターの業務について研修, 約35名
- 4. 17 長岡宮跡第172次調査(向日市)開始
- 4. 23 長岡京連絡協議会開催
- 4. 24 全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック会議一於長岡京市埋蔵文化財センター一出席(荒木事務局長, 白塚総務課長, 堤調査課長)  
篠窯跡群掛ヶ谷地区(亀岡市)発掘調査開始
- 4. 25 全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等導入研究委員会一於東京都一出席(堤調査課長, 山口主任調査員)
- 4. 26～27 日本考古学協会総会一於駒沢大学一出席(引原, 荒川調査員)
- 4. 30 長岡京跡左京第155次調査(向日市)開始
- 5. 6 芝山遺跡(城陽市)発掘調査開始
- 5. 8 谷内遺跡(中郡大宮町)発掘調査開始
- 5. 12 木津地区遺跡(相楽郡木津町一住宅

・都市整備公団開発予定地)発掘調査開始

千代川遺跡(亀岡市)発掘調査開始

5.15~16 全国埋蔵文化財法人連絡協議会  
役員会一於北九州市一出席(荒木事務  
局長, 富田, 杉江囑託)

5.23 木津川河床遺跡(八幡市)発掘調査開  
始

5.24 桃山古墳群(中郡大宮町)現地説明会  
開催, 参加者約70名

5.27 綾中遺跡(綾部市)発掘調査開始

5.28 長岡京連絡協議会開催

5.31 中国陝西省文物管理委員会日本研修  
生范培松氏送別会開催一於向日市

## 2. 普及啓発事業

3.16 久美浜町文化財保護委員会主催文化  
財講演会に於いて, 堤調査課長「丹後  
地方における古代遺跡」講演

3.23 乙訓文化財事務連絡協議会主催のス  
ライドでみる乙訓の発掘で, 石尾政信  
調査員「長岡京跡西方官衙地区の調査」  
報告

3.29 (財)長岡京市埋蔵文化財センター主  
催第7回文化財講演会に於いて堤調査  
課長「京都府下における埋蔵文化財の  
保護」講演

3.31 『京都府埋蔵文化財情報』第19号刊  
行

4. 1 亀岡市文化資料館常設展示に亀岡市  
篠窯跡群出土遺物ほかを出品協力〜  
62.3.31

向日市文化資料館常設展示に長岡京

市舞塚古墳出土人物埴輪を出品協力〜  
62.3.31

4. 9 京都府立丹後郷土資料館 特別陳列  
「私たちの考古学 I」展に大江町三河  
宮ノ下遺跡出土遺物ほかを出品協力〜  
6.10

4.12 神戸市立博物館主催「中世播磨のや  
きもの展」に福知山市大道寺跡出土経  
筒他5点を出品協力〜5.25

4.17 大阪市立博物館主催「丹波の文化財  
展」に亀岡市太田遺跡, 篠窯跡群, 綾  
部市青野西遺跡等出土遺物84点出品協  
力

5. 8 向日市文化資料館企画展「道具の歴  
史」に亀岡市北金岐遺跡出土木舟ほか  
を出品協力〜5.31

5.10 丹後郷土資料館主催文化財講座で,  
堤調査課長「京都府北部の発掘調査か  
ら」講演

5.17 綾部市教育委員会主催郷土史講座  
で, 長谷川主任調査員「京都府北部の  
縄文時代遺跡」講演

5.30 第34回研修会開催一於京都社会福祉  
会館一(発表者及び題名)金村允人「昭  
和60年度の京都府内の発掘調査につい  
て」(特別講演)文化庁記念物課主任文  
化財調査官河原純之氏「埋蔵文化財保  
護の現状と課題」

## 3. 人事異動

3.31 山下 正調査員退職(舞鶴市立青葉  
中学校教諭に転出)

4. 1 鍋田 勇調査課調査員に採用さる。

受贈図書一覧 (61. 3～61. 5. 10)

|                           |                                                                                                                          |
|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団          | 研究紀要 3                                                                                                                   |
| (財)市原市文化財センター             | 市原市文化財センター年報 昭和57・58年度, 同 昭和59年度,<br>一千葉県市原市一草刈遺跡                                                                        |
| (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所          | 原川遺跡 昭和59年度発掘調査概報, 静岡県埋蔵文化財調査研究所<br>年報 1, 祝田遺跡 1, 椿野遺跡 1                                                                 |
| (財)滋賀県文化財保護協会             | 滋賀文化財だより 2                                                                                                               |
| (財)大阪文化財センター              | 成合寺, 長原(その2), 大堀城跡Ⅱ, 大堀城跡Ⅲ                                                                                               |
| (財)東大阪市文化財協会              | 法通寺, 芝ヶ丘遺跡発掘調査概報                                                                                                         |
| (財)枚方市文化財研究調査会            | 枚方市文化財年報Ⅵ                                                                                                                |
| 高槻市立埋蔵文化財調査センター           | 梶原南遺跡発掘調査概要 第2次調査                                                                                                        |
| 奈良県立橿原考古学研究所              | 橿原考古学研究所紀要 考古学論攷                                                                                                         |
| (財)鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター | 大熊段遺跡, 鳥取県埋蔵文化財シリーズ 1 鳥取県の古墳                                                                                             |
| 井川町教育委員会                  | 大野地遺跡 第2次調査概報                                                                                                            |
| 入間市教育委員会                  | 裏山遺跡                                                                                                                     |
| 金沢市教育委員会                  | 金沢市近岡ナカシマ遺跡, 金沢市埋蔵文化財調査年報                                                                                                |
| 加賀市                       | 勅使館跡                                                                                                                     |
| 松本市教育委員会                  | 松本市宮淵本村遺跡(遺構編), 松本市島立南栗遺跡,<br>松本市竹測・南原遺跡, 松本市梶海渡遺跡, 松本市蓮台遺跡,<br>松本市島内遺跡群 上平瀬遺跡, 推定信濃国府一第4次調査報告一<br>松本市岡田西裏遺跡, 松本市島立条里的遺構 |
| 浜松市教育委員会                  | 浜松市半田山遺跡(Ⅳ)発掘調査報告書                                                                                                       |
| 愛知県教育委員会                  | 愛知県埋蔵文化財情報 1 昭和59年度                                                                                                      |
| 守山市教育委員会                  | 播磨田東遺跡発掘調査報告書, 伊勢遺跡・小島遺跡発掘調査概報,<br>長塚遺跡発掘調査報告書                                                                           |
| 東大阪市教育委員会                 | 東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要 1985年度                                                                                                   |
| 和泉市教育委員会                  | 府中遺跡群発掘調査概要 Ⅳ                                                                                                            |
| 八鹿町教育委員会                  | 但馬伊達氏・小佐城館                                                                                                               |
| 奈良県                       | 第一回奈良国際シンポジウム「文化遺産の保存と都市づくりとの調和」                                                                                         |
| 大和郡山市教育委員会                | 平城京右京八条二坊十一坪・平城京右京八条二坊十四坪発掘調査概要報告, 郡山城第7次 追手東隅櫓・東多聞櫓発掘調査概要報告,                                                            |

|                 |                                                                              |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 岡山県教育委員会        | 西田中遺跡第1・2次発掘調査概要報告<br>岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16, 西奥遺跡, 蓮池尻遺跡・新庄尾上遺跡ほか・美野条里遺跡・二反田B遺跡ほか |
| 豊北町教育委員会        | 土井ヶ浜遺跡 第10次発掘調査概報                                                            |
| 高知県教育委員会        | 高知空港 拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 田村遺跡群 第1分冊～第15分冊                                  |
| 宮崎県教育委員会        | 宮崎県文化財調査報告書 第29集, 保木下遺跡, 宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報(V)                                |
| 北網圏北見文化センター     | 中ノ島遺跡Ⅱ                                                                       |
| 北見市立北見郷土博物館     | 北見郷土博物館紀要 第15集                                                               |
| 流山市立博物館         | 学校教材用資料目録 第5集・民俗資料Ⅲ                                                          |
| 出光美術館           | 出光美術館 館報52                                                                   |
| 平塚市博物館          | 平塚市王子台遺跡発掘調査報告書, 平塚市博物館年報 第9号                                                |
| 名古屋市見晴台考古資料館    | 見晴台教室'85, 熱田区・白鳥古墳—法持寺改築に伴う発掘調査の概要一, 特別展 弥生土器                                |
| 大阪府立泉北考古資料館     | 大阪府の銅鐸図録                                                                     |
| 大阪市立博物館         | 丹波の文化財                                                                       |
| 神戸市立博物館         | 神戸市立博物館館蔵名品図録                                                                |
| 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館 | 飛鳥寺                                                                          |
| 天理参考館           | オリエントの形象土器                                                                   |
| (財)日本はきもの博物館    | 日本はきもの博物館                                                                    |
| 佐賀県立博物館・美術館     | 佐賀県立博物館・美術館調査研究書 第10集, 同 第11集                                                |
| 佐賀県立九州陶磁文化館     | 南川原窯ノ辻窯・広瀬向窯—肥前地区古窯跡調査報告書 第3集—                                               |
| 東北大学文学部考古学研究室   | 東北大学考古学研究報告                                                                  |
| 東北学院大学文経法学会     | 東北学院大学論集 歴史学・地理学 第17号                                                        |
| 山形史学会           | 山形大学史学論集 第6号                                                                 |
| 和洋女子大学          | 下総国分の遺跡                                                                      |
| 国學院大學考古学資料館     | 余山貝塚資料図譜                                                                     |
| 日本大学文理学部史学研究室   | 田野平遺跡, 吹上原横穴墓群                                                               |
| 日本大学史学会         | 史叢 第36号                                                                      |
| 明治大学考古学博物館      | 明治大学考古学博物館館報 No. 1                                                           |
| 愛知学院大学文学会       | 愛知学院大学文学部紀要 第15号                                                             |
| 大手前女子学園         | 有岡城と伊丹郷町                                                                     |
| 奈良女子大学          | 奈良女子大学構内遺跡発掘調査概報Ⅰ, 同Ⅲ                                                        |

東邦大学附属東邦高等学校東邦  
考古学研究会

東邦考古11

宮内庁書陵部

書陵部紀要 第37号

平塚市遺跡調査会

真土六の城遺跡，四之宮高林寺 3

朝鮮学会

朝鮮学報 第百十八輯

法隆寺

法隆寺防災施設工事発掘調査報告書

(財)古代学協会

古代文化 Vol. 38 No. 4~No. 5

博物館等建設推進九州会議

Museum Kyushu 第19号

河出書房新社

三世紀の九州と近畿

嶺南大学校博物館

造永洞発掘調査報告，慶山地表調査報告

福知山市教育委員会

中之段 4 号墳，福知山城内堀跡

大山崎町教育委員会

大山崎町埋蔵文化財調査報告書 第 4 集

京都国立博物館

昭和59年度 京都国立博物館年報

京都府立総合資料館

京都府資料目録追録 No. 2

京都府立丹後郷土資料館

私たちの考古学 1—京都府北部の発掘調査—

京都大学埋蔵文化財研究センター

京都大学構内遺跡調査研究年報 昭和58年度

佛教大学図書館

鷹陵史学 第10号

綾部史談会

丹波史何鹿郡之部

日本史研究会

日本史研究 279

井 上 定 清

大阪府の銅鐸図録

角 谷 和 男

五軒屋敷遺跡調査報告書，土佐国衙跡発掘調査報告書 第 2 集

鹿 見 啓太郎

尾市 1 号古墳発掘調査概報

古 内 茂

石神台貝塚戸ノ内貝塚

## 一編集後記一

梅雨の季節になって、雨の降る日が多くなりましたが、情報20号が完成しましたのでお届けします。

本号は、布目順郎氏と佐藤晃一氏に御投稿いただきました原稿を掲載することができまして、内容が従来にもまして充実したものになっております。特に、布目氏の御報告は、出土遺物に付着していた古代布の分析に関するもので、興味のつきない内容になっております。また、本号は、昭和61年度最初の号なので、昭和60年度の発掘調査概要と昭和61年度の発掘調査予定を掲載いたしました。

なお、今年度も資料紹介や府下遺跡紹介を掲載していく予定ですので、御期待下さい。

(編集担当＝土橋 誠)

## 京都府埋蔵文化財情報 第20号

昭和61年 6月30日

発行 (財) 京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3  
TEL (075)933-3877 (代)

印刷 中 西 印 刷 株 式 会 社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL (075)441-3155 (代)